

68

445

漢學士 岩村茂先生著

# 日本手形法摘要

玉潤堂發兌

035389-000-7

68-445

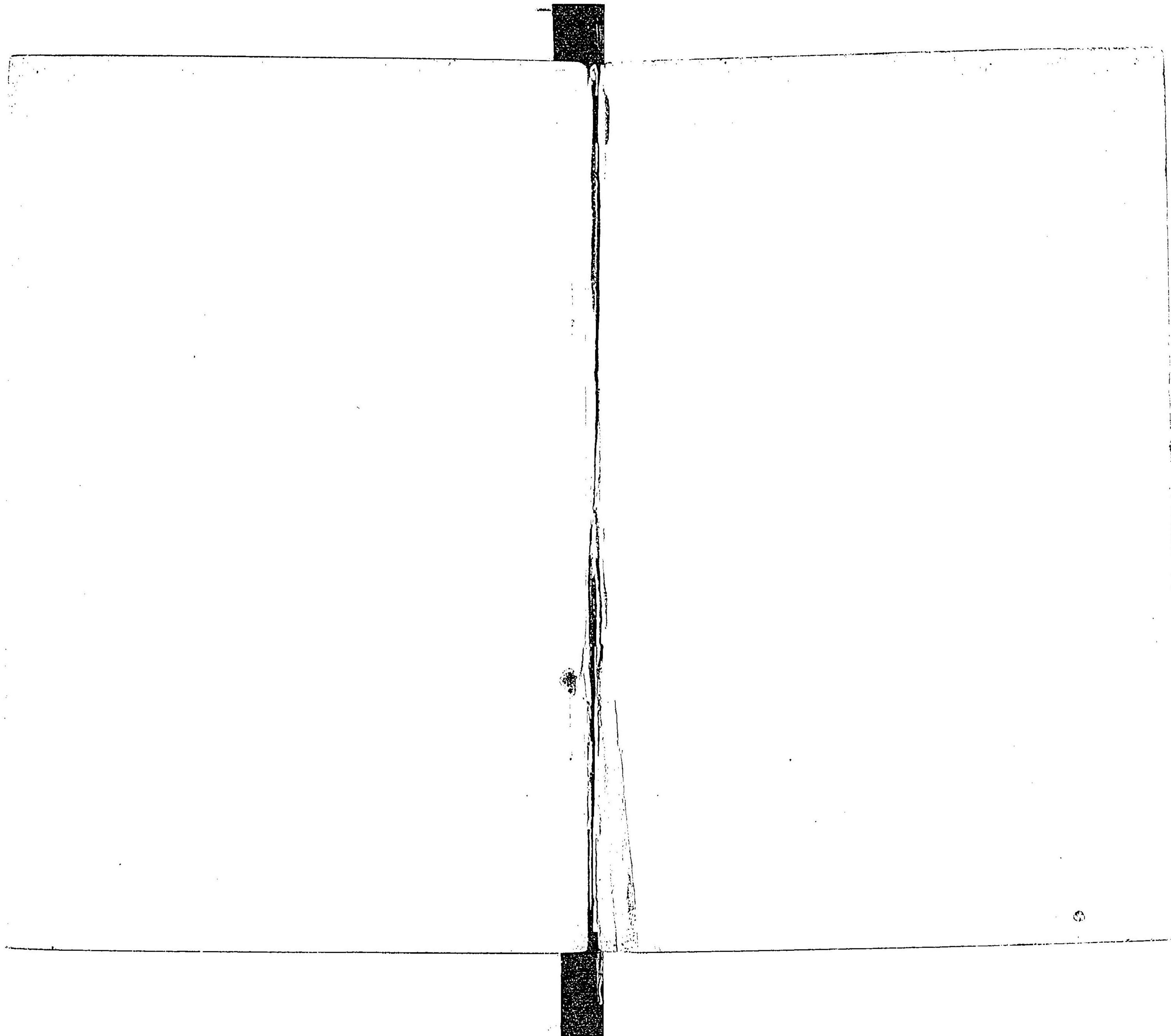
日本手形法摘要

岩村 茂 / 著

M29

BBO-0574





士師名古風控訴院及國錄

雙



由



法通

正印金孫



正師名古厚樓院長印

### 日本手形法摘要序

我友岩村君嘗テ帝國大學ニ遊ヒ業既ニ成リテ陸軍省法  
官部ニ出仕シ幾モ無ク海外派遣ノ命ヲ被リ文明諸國ヲ  
巡歴シテ得ル所尠カラス歸朝復命ノ後第一師團ニ從事  
シ轉シテ第三師團ニ來ルヤ會々予カ管スル所ノ名古屋  
商業學校法律科ノ教授缺員セルニ際ス是ニ於テカ君ヲ  
請フテ其任ニ當ラシム君乃チ惠然來リ肯シ本務ノ餘孜  
々トシテ講授ノ勞ヲ執リ學生ヲ裨益スルコト勝ヘテ算  
フヘカラス時ニ日清ノ平和破レ兩國忽チ干戈ノ間ニ相  
見ルニ至リ君亦敵地ニ出征スルコト幾ント一閱年王事

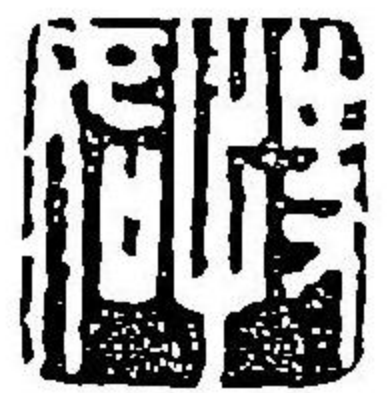
既ニ畢リ幾多ノ名譽ヲ荷ヒテ凱旋歸團スルヤ功ヲ以テ  
旭日勳章及ヒ金圓ノ恩典ヲ拜受セリ豈ニ隆ニシテ昌ナ  
リト謂ハサルヘケンヤ本年ニ至ルニ及ヒテ復タ君ヲ累  
ハシテ本校講師ト爲ス君ノ恪勤精勵ナル唯タ課業ノ進  
歩是レ圖リ日夕營々トシテ思テ教授ノ方法ニ焦カスコ  
ト一ニシテ足ラス日者學生筆記ノ煩ヲ省キ且ツ一般實  
業家ノ參考ニ資センカ爲メニ其講義録ニ筆ヲ加ヘテ日  
本手形法摘要ナルモノヲ公ニセラル蓋シ予ハ法學ニ於  
テ未タ其堂ニ造ラス未タ其裁ヲ嗜メサル者ナリ然レト  
モ伏シテ此著ヲ閱スルニ能ク手形ノ法意ヲ括論シテ餘

サス理義最モ平明ニシテ且ツ實際ノ應用ニ適スルコト  
ヲ疑ハス信用取引ノ將ニ勃興セントスルニ際シ此著ヲ  
見ル其世ヲ益スルコト決シテ鮮少ナラサルヲ信ス願フ  
ニ君カ普ク政法ノ學ニ通スルハ固ヨリ言ヲ待タスト雖  
モ特ニ商法及ヒ經濟ニ於テ精熟セル思想ト透徹ナル眼  
光トヲ有スルハ世皆之ヲ知ル予ハ信ス方今手形法ニ關  
スルノ書多シト雖モ皆專門攻究者ノ用ニ供シタルモノ  
ニシテ此書ノ如キ實際家ト商業學生トノ爲メニ著シタ  
ルモノ蓋シ稀ナリト本書ノ社會ニ歡迎セラル、コト洵  
ニ疑ヲ容レサルナリ望ムラクハ速ニ之ヲ剞劂ニ附シ以

テ汎ク需用者ノ渴仰ヲ醫センコトヲ述作ノ事畢リ一言  
ヲ徵セラル、ニ及ヒテ其功績ヲ贊襄スルト共ニ君カ平  
生ニ關シ予カ知ル所ヲ略叙シ以テ序辭ニ換フト云爾

明治丙申ノ秋九月名古屋商業學校教官室ニ於テ

圖南學人撰



緒言

一現今江湖ニ公行スル商法ニ關スル著書ハ實ニ汗牛充  
棟モ啻ナラス然レトモ其說述スル所多クハ外國商法  
ノ原則ヲ論シ又內國商法ノ法理ヲ究ムルモノノミ或  
ハ紙冊浩漭ニ涉リ或ハ議論高尙ニ過キ幾ント實際家  
并ニ商業學生ノ用ニ適スルモノアルナシ不肖自ラ揣  
ラス頃日校友ノ請ニ應シ嘗テ本校學生ニ講述シタル  
商法ノ内ヨリ先ツ手形法筆記ヲ省約シテ上梓スル  
ト爲シヌ文章ハ平易ヲ主トシ理論ハ實際ノ疑問ヲ解  
釋スルニ止メ專ラ手形法ノ摘要ヲ講述シタルニ過キ

サレハ固ヨリ大方君子ノ覽ニ供スルモノニアラス  
 一爲換手形、約束手形及ヒ小切手ハ是ヲ信用證券ト稱シ  
 皆共ニ紙幣ノ代用ヲ爲スモノナリ而シテ之ヲ紙幣ノ  
 使用ニ比スレハ幾多ノ利益アルコトヲ忘ル可カラス  
 第一紙幣ハ盜難紛失ノ恐アリ第二紙幣ハ運送ノ勞費  
 アリ第三紙幣ハ自己ノ手中ニ存スル間ハ利息ヲ儲ク  
 ルノ利益ヲ失フ其不利不便ハ洵ニ手形ト同日ノ論ニ  
 アラス就中爲換手形及ヒ約束手形ハ即チ流通證書ニ  
 シテ此行使ノ多寡ハ蓋シ其國實業ノ振不振ノ標準ト  
 爲ルナリ宜ナル哉輓近我邦ニ於テ手形ノ取引最モ頻

繁ナル所ハ大坂ヲ最トシ東京之ニ次キ神戸横濱亦頗  
 ル見ルヘキモノアリ然レトモ其他ノ都邑ニ至リテハ  
 更ニ手形ノ交通ナシト謂フモ過言ニアラス豈ニ慨嘆  
 セサル可ケンヤ觀ヨ手形ノ物タル美味輒チ美味ナリ  
 一タヒ之ヲ味ヘハ又永ク忘ル可カラサルノ美味アリ  
 ト雖モ其之ヲ食フニハ法アリ猥リニ之ヲ食ヘハ時ニ  
 食傷ノ憂ナシトセス是ヲ以テ其之ヲ食フニ先チ自ラ  
 一定ノ法則アルヲ知得セサル可カラス  
 一手形ハ商業交通ノ爲メニ必須ノ要具一大機關タルヲ  
 ハ今更ニ喋々スルニ及ハス要ハ唯タ社會ノ人ヲシテ



之ヲ行使スルノ方法ヲ知得セシムルニ在ルノミ夫レ  
 然リ手形ノ行使愈々進歩スレハ信用制度愈々勃興シ  
 信用制度愈々勃興スレハ取引交通愈々振起スヘシ於  
 是乎他働的商戰ト富國的強兵ノ基礎自ラ定マラン矣  
 手形ノ効力嗚呼亦大ナル哉不肖ノ此著曷ソ世ニ小補  
 ナシトセンヤ讀者之ヲ諒セヨ

明治廿九年八月於金城僑居 岩村 茂謹識

## 日本手形法摘要目錄

### 第一章 總論

- 第一節 沿革……………一
- 第二節 爲換手形ノ性質當事者及ヒ効用……………七
- 第三節 約束手形ノ性質當事者及ヒ効用……………一一
- 第四節 小切手ノ性質効用……………一三

### 第二章 手形ノ方式及ヒ効力

- 第一節 手形ノ要件……………一五
- 第二節 手形及ヒ小切手ノ作成並ニ効力……………一九
- 第三節 手形ニ關スル人ノ能力權限及ヒ偽造變造ノ  
 効果……………三六

第三章 時効

- 第一節 時効ノ目的及ヒ其期間……………四三
- 第二節 時効ノ起算……………四七
- 第三節 時効ノ中斷及ヒ消滅……………五一
- 第四節 時効ノ効力及ヒ失効ノ結果……………五七

第四章 爲換手形ノ發行

- 第一節 國際間ノ爲換……………六二
- 第二節 手形ノ振出……………六五
- 第三節 組爲換手形及ヒ謄本……………七〇

第五章 手形ノ讓渡及ヒ引受

- 第一節 裏書……………七二
- 第二節 手形ノ引受及ヒ呈示……………八〇

- 第三節 引受ノ拒絕及ヒ榮譽引受……………八五

- 第四節 手形ノ保證……………九一

第六章 手形ノ支拂及ヒ不拂

- 第一節 手形ノ支拂……………九三
- 第二節 榮譽支拂……………一〇〇
- 第三節 償還請求及ヒ戻爲換……………一〇四
- 第四節 拒證書……………一〇九

第七章 爲換資金

第八章 約束手形

第九章 小切手

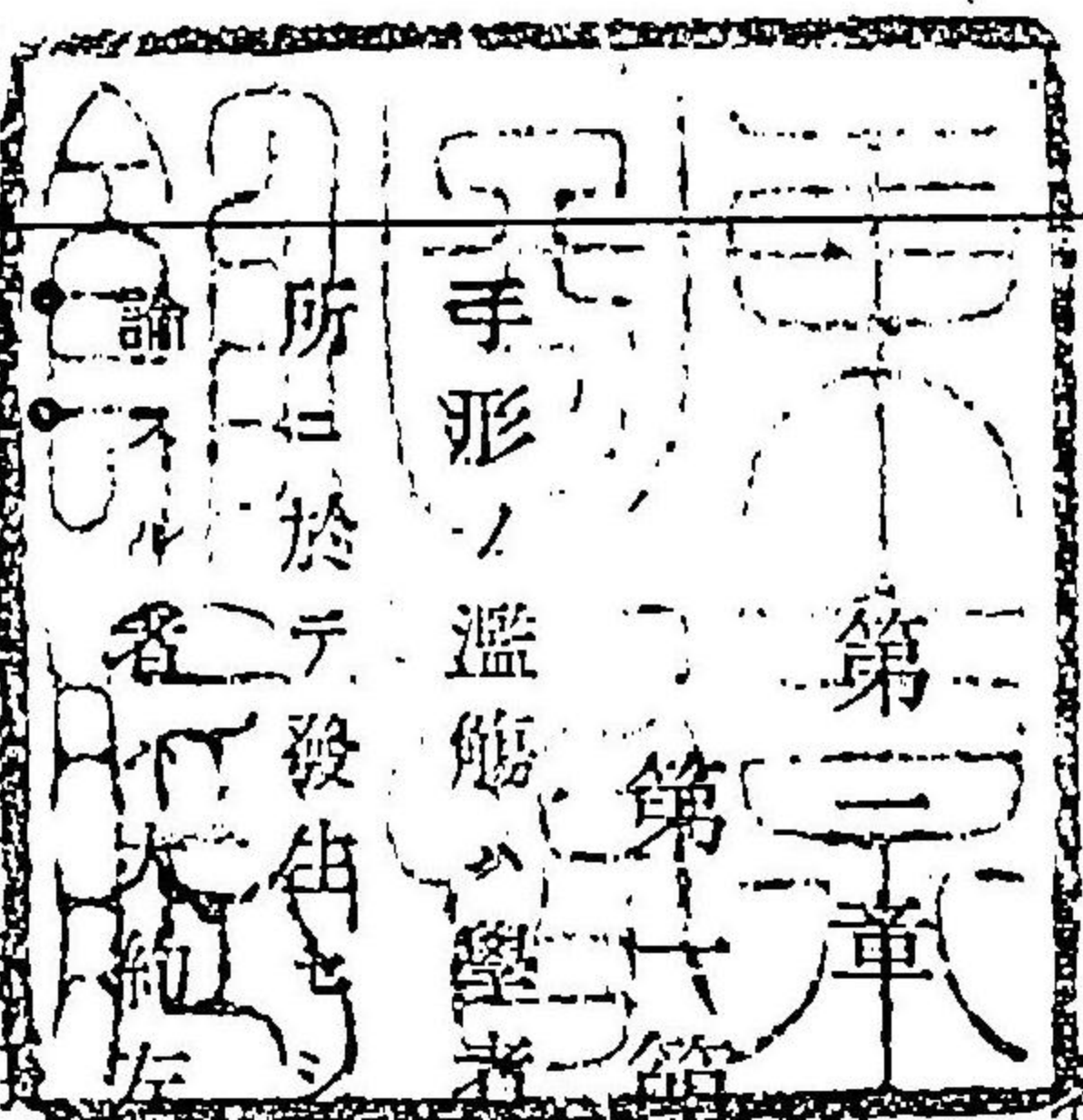
# 日本手形法摘要

名古屋商業學校講師法學士

岩村 茂 著

## 總論

### 沿革



歐洲ニ於ケル手形ノ發達

手形ノ濫觴ハ學者ノ所說一定ナラス從ヒテ何レノ時代何レノ場  
 所ニ於テ發由セシヤハ幾ント之ヲ知ルニ由ナシ然レモ其起源ヲ  
 論スル者ハ約々ノ三種ニ歸スルモノ、如シ  
 第一 手形ハ發明チ爲シタル者ハ第十四世期ノ頃伊太利ノ都府  
 「フロレンツ」ヨリ放逐セラレタル「シフレン」人是レナリ爾來佛國ニ  
 傳ハリ佛人更ニ之ヲ英國ニ傳ヘ漸次歐洲各國へ布及スルニ至レ  
 リト云フ

第二● 手形ノ發明ハ全ク猶太人ニ係ル蓋シ猶太人ハ各國到ル所ニ虐待セラレ爲メニ甲地方ヨリ乙地方ニ安然ニ現金ノ送致又ハ自カラ携帶ヲ爲ス可能ハサリシ是ニ於テ爲換ナルモノヲ發明シタリ以後漸々他ノ人種ニ此方法ヲ傳ヘタリト云フ

第三● 手形ハ商業ノ進歩ニ從ヒ自然ニ發達シタルモノニシテ敢テ一二人種ニ限リタルモノニアラス中世伊太利及ヒ佛朗西ノ市場ニ於テ初メテ行ハレ漸次諸邦ニ流傳セシモノナリト云フ

以上ノ三說ニ歸スト雖モ其何レカ果シテ確說ナルヤ事實不明ニシテ之ヲ窮ムルニ由ナシ然リト雖モ予カ卑見ヲ以テセハ第一說及第三說較ヤ眞ニ近キモノ、如シ何トナレハ佛國ニ於テハ千六百七十三年ノ勅令ヲ以テ初メテ爲換手形ニ關スル規則ヲ頒布セリ是レ歐洲大陸ニ於ケル手形ニ關スル規程ノ藁矢ナレハナリ其

本邦ニ於ケル手形ノ發達

後之ヲ増補シ千八百七年ニ至リテハ既ニ商法ノ中ニ此カ細密ナル規程ヲ設ケタリ千八百六十五年ニハ小切手ニ關スル條例ヲモ定メタリ然リ而シテ佛國ノ法典ハ其初メ各國法典ノ摸範ト爲リタルノミナラス其手形法ノ如キモ各國咸ク佛國ノ亞流ヲ酌ミテ創定セシモノナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ爲換ノ濫觴ハ即チ伊太利ニ在リ次イテ佛國ニ傳ハリ更ニ之ヲ英國其他ノ各邦ニ普及シタルコトハ又疑フ可カラサル事實ナルカ如シ

歐洲各國ニ於ケル手形ノ沿革ハ以上說述スルカ如シ今ヤ本邦ニ於ケル手形ノ沿革如何ヲ繹ヌルニ惜哉文献ノ以テ徵スヘキモノナシト雖モ大阪兩替商ノ口碑ニ依レハ豊臣氏時代ニ於テ單ニ國ノ一局部タル大阪ニ於テノミ行ハレタリト云フ其根源ニ至リテハ天王寺屋五兵衛ナル者往時青砥左衛門尉藤綱鎌倉ノ奉行タリ

シトキ手形ヲ作り發行シタリシト云フ故智ニ倣ヒ初メテ之ヲ大阪ニ實施シタリ其後大阪ノ町奉行石丸石見守頗ル心ヲ市政ニ用非當時大坂ニ十八兩替ナルモノヲ置キ各自互ニ連絡シテ以テ循環圓轉シテ手形ヲ流通セシメタルニ基因セルモノ、如シト雖モ終ニ之ヲ全國ニ傳播スルヲ能ハカリシ或ハ曰ク六十日目爲換及ヒ送金手形ノ如キハ已ニ文祿年間ニ起源シ中古大坂市中ニ盛ンニ發行シタルモノナリト徳川氏ノ時代ニ於テハ手形ノ流通却テ衰頽シ殆ント其痕跡ヲ見ザルニ至リシヲアリ加之維新後即チ明治元年五月丁銀廢止ノ法令ニ依リ茲ニ彌々手形ノ發達ヲ妨ケタルノミナラス却テ禁止ノ姿トナリタリ其後數年ヲ經テ國立銀行正金銀行ノ設立アルニ際シ該銀行ニ限リテ手形ノ發行ヲ許サレ亞イテ明治十五年十二月廿九日太政官ハ爲換手形約束手形條例

ヲ發布セリ即チ此條例ハ佛國ノ法律ニ摸倣シタリシモ頗ル不備ノモノニシテ殆ント實用ニ適セザリシナリ固ヨリ當時ノ我商業社會ハ其取引今日ノ如ク頻繁ナラカリシヲ以テ商業家モ餘リ手形ノ必要ヲ感セス從テ其流通モ極メテ甚カリシハ疑ナシト雖モ其後社會ノ進歩ト商取引ノ擴張ト漸ク其歩ヲ進メテ日一日隆盛ヲ加ヘ手形ノ運用亦愈々増加シ遂ニ此條例ノ實用ニ適セサルヲ知覺シタルノミナラス此條例ノ不完全ナルヨリ種々ノ訴訟ハ興起シ政府モ爲メニ大ニ困難ヲ感スルニ至リシナリ茲ニ於テ初メテ商法ヲ制定シ此内ニ手形ノ規定ヲ設ケ頒布スルヲ爲リタルハ實ニ明治二十三年三月廿七日ノ事ナリキ即チ法律第三十二號是レナリ而シテ商法中諸多ノ事項ト共ニ此手形法モ翌廿四年一月一日ヨリ實施スヘキ旨公布カレタルニ拘ラス忽チ同年第一

期帝國議會ハ其實施ノ延期ヲ可決スルニ至リタルハ商業界ノ爲メ甚々遺憾ノ限リナリシナリ即チ同年十二月廿六日法律第百八號ヲ以テ其延期スル旨ヲ公布シテ更ニ明治二十六年一月一日ヨリ實施スト然ルニ復々同廿五年十一月廿二日ノ法律第八號ヲ以テ明治二十九年十二月三十一日マテ再度ノ延期ヲ公布サレタリ然リト雖モ其但書ニ修正ヲ終リタル分ハ本文期限内ト雖モ之ヲ實施ストノ除外明文アリタルニ因リ政府ハ同廿五年十一月第四期帝國議會ニ向テ商法ノ一部即チ現行會社法、手形法、破産法ノ修正案並ニ其施行案ヲ提出シ此度ハ首尾能ク兩院ノ可決ヲ經タルヲ以テ遂ニ同廿六年三月四日法律第九號ヲ以テ公布式ヲ了シ同年七月一日ヨリ實施スヘキヲ發布サレタルナリ

現行手形法ハ上ニ述ヘタル如ク幾多ノ變遷ト數度ノ修正トニ依

リテ制定セラレタルノミナラス帝國議會ニ於テモ種々ノ利害得失ニ鑑ミ最モ周密ナル討議ヲ盡シタル後漸ク其施行ヲ見ルニ至リタルモノナレハ完全ナル法律タルコト言テ竣タスト雖モ尙ホ之レカ細密ナル注意ヲ以テ立法上ヨリ論スルキハ多少ノ瑕疵ナキ能ハス是レ蓋シ一利一害ハ是レ數ノ免レサル所ニシテ爲メニ此手形法ノ如キモ其流通中間ニ此レカ詐僞ノ手段ニ陷ルコトアリト雖モ是ハ畢竟其人現行ノ手形法ヲ知得セサルノ罪ナリ少シク注意セハ蓋シ之ヲ防クコトヲ得ルヤ易々ノ業ナリト信ス

## 第二節 爲換手形ノ性質當事者及ヒ効用

手形ニ二種アリ爲換手形及ヒ約束手形是レナリ而シテ爲換手形トハ一名他拂手形トモ謂フ

口頭ヲ以

凡ソ手形ナルモノハ必ス書面即チ書付ナルヲ要ス而モ法律上能

テ爲換ノ  
契約ヲ爲  
シ得ルヤ

力者タル者ノ作成シタル書付タルヲ要スルモノナリ元來法律上ノ契約ニ口頭ノ契約ト書面ノ契約トノ二種アリ而シテ口頭ノ契約トハ例ヘハ吾人カ書舗ニ行キテ此本ヲ買ハント言フテ代金五十錢ヲ出セハ書舗ハ之ヲ承諾シテ其本ヲ吾人ニ渡スカ如キハ是レ口頭ノ契約ニシテ一ノ書付ヲ要セサルノ契約ナリ故ニ之ヲ無式ト云ヒ書面ノ契約ハ之ヲ有式又ハ要式ト云フ手形ハ此書面契約ノ一種ニシテ即チ有式又ハ要式ナルヲ要ス故ニ手形ハ口頭ノ契約ヲ以テ成立ツヘキモノニアラス必ス書付ヲ要ス爲換手形トハ書付ヲ書キ其書付ヲ持參シ來レハ任拂人ハ其書付ニ應シテ金錢ヲ支拂フヲ約束スルヲ謂フ例ヘハ今名古屋ノ商人甲ナル者カ東京ノ商人乙ナル者ヨリ生絲ヲ五千圓ニテ買入レタル場合ニ普通ノ契約ナレハ名古屋ノ甲ハ直チニ東京ノ乙ニ向

現金輸送  
ニ比シ爲  
換手形ヲ  
送付スル  
ノ利幾何

ヒテ代價ヲ支拂ハサル可カラス然ルニ此時恰モ好シ此名古屋ノ甲カ東京ノ商人丙ナル者ニ其名産ナル扇子ヲ賣リ其代金五千圓受取ルヘキ金額アル場合ニ甲ハ丙ヨリ五千圓ヲ受取ルヘキ手數ヲ省ク爲メニ甲カ東京ノ丙ニ申送ルニ拙者カ貴殿ヨリ受取ルヘキ金五千圓ハ貴地ノ乙商人ニ拙者ヨリ支拂フヘキ金五千圓アルヲ以テ貴殿ヨリ乙ニ五千圓ヲ支拂ヒ被下度ト書付ヲ送ル此書付ヲ稱シテ爲換手形ト云フ即チ佛語ノ他拂手形是レナリ昔時名古屋ノ商人カ江戸ノ商人ニ支拂フヘキ金額アレハ皆之ヲ持チ運ヒテ遠ク旅行セサルヲ得サリシ其他遠國ニテ物ヲ買ヒ來ラントセハ同シク遠ク之ヲ持參セサルヲ得サリシ加之其當時ハ瀛車汽船ノ便ナク郵便電信ノ設ナカリシ故送金ノ途中箱根ノ峠等ニテ賊難ニ遇ヒ金ヲ奪取セラル、ト屢々ナリキ然ルニ此手形

チ用ウレハ管ニ遅延ヲ避クルノミナラス其運送ノ費用及ヒ危険  
ヲ免カレ加之毎ニ利息ヲ要セサルノ利益アルナリ況ンヤ當時汽  
車汽船ノ便ハ勿論郵便電信到ル所ニ設置サレ銀行ノ如キハ僻陬  
ノ土地ニ到ルモ設立アルニ至リ送金ノ自由自在ナル昔人ノ夢想  
シ及ハサルニ於テチヤ

爲換手形  
ナ行使ス  
ルニ就キ  
テ其關係  
者ノ名稱  
如何

爲換手形ノ行使ニ就キテ三ツノ關係者アリ即チ第一振出人前例  
甲ニシテ手形ノ發行者ナリ第二支拂人東京ノ丙ナリ第三受取人  
即チ手形ヲ受取りタル人前例ノ乙是レナリ  
右ノ三者アレハ手形ノ働ハ完全ナルヲ得ヘシ然レモ實際ニ在リ  
テハ受取人即チ前例ノ乙ガ一旦受取りタル手形ニ裏書シテ再ヒ  
他人ニ讓渡スコアリ之ヲ裏書讓渡ト云フ又別ニ榮譽引受ナルモ  
ノアリ凡ソ手形ハ期限至レハ其支拂人ハ其手形面ノ金額ヲ支拂

ハサル可カラス例ヘハ前例ノ受取人乙カ丙ノ家ニ行キテ此手形  
ノ期限至レハ必ス拂ヒ呉レト言ヒテ丙カ之ヲ引受ケタルキ又ハ  
銀行カ其手形ニ(引受)ノ印ヲ押シタルキハ其手形ハ期限至レハ引  
受人ヨリ當然支拂ハルヘキモノニテ甚タ堅固ナルモノナリ故ニ  
引受ノ手形ハ紙幣ト同様ノ効力ヲ有ス然ルニ若シ丙カ其手形ノ  
引受ヲ爲サ、ルキハ乙ハ該手形ノ振出人甲ヲ甚タ不信用ノ商人  
ナリトシテ直チニ其手形ヲ甲ニ返ス此場合ニ戻爲換チ作ルコトア  
ルナリ又此手形支拂人丙カ引受ヲ爲サ、ル場合ニ東京ノ甲ノ知  
人丁ナル者アリテ甲ノ名譽ノ爲メ引受ヲ爲シタルキハ即チ此丁  
ヲ榮譽引受人ト謂フ其他詳細ナル手續ハ節ヲ遂ヒテ再說スヘシ

第三節 約束手形ノ性質當事者及ヒ効用

約束手形或ハ一名之ヲ自拂手形トモ云フ要スルニ約束手形ナル



約束手形ノ當事者トハ如何

モノハ其振出人カ自ラ指名シタル受取人又ハ受取人カ指圖シタル人其又指圖シタル人即チ手形ノ所持人ニ一定ノ金額ヲ一定ノ期日ニ支拂フヘキヲ約束スル所ノ手形即チ是レナリ換言セハ振出人ハ其支拂ヲ他人ニ委託セスシテ自身カ支拂ヲ爲スモノ是レナリ而シテ此手形モ亦書付ヲ以テ振出スヲ要ス故ニ此手形ノ成立ニ關スル當事者ハ振出人受取人ノ二人ナリトス然リト雖モ此手形亦自由ニ轉讓流通スヘキモノナレハ屢々三人以上ニ跨ルコトアルヘシト雖モ其成立ニ於ケル當事者ハ常ニ二人ニ過キス何トナレハ如何ナル場合ニテモ此手形ノ振出人ハ支拂人ノ身分ヲ兼有スルモノナレハナリ是ヲ以テ此約束手形ニ在リテハ引受及ヒ資金ニ關スル規定ハ全ク之ナシ其事項ニ就キテ若シ關係ヲ有スルコトアラハ爲換手形ニ關スル法規ヲ準用スヘキナリ

小切手振出ノ方法如何

尙ホ其他爲換手形ト異ナル點並ニ其他ノ手續ハ以下順チ逐ヒ之ヲ詳述スヘシ

### 第四節 小切手ノ性質効用

小切手トハ或ル金額ヲ銀行ニ寄托シ又ハ其他ノ方法ニ依リ即チ根抵當ヲ入レタルカ又ハ信用約束ニ因ルカ或ハ交互計算等ノ關係アルカニ由リテ銀行ニ對シ繼續セル信用アル者之ヲ作り自分ノ需用ニ充ツル爲メ若クハ第三者ニ支拂ノ爲メ或ル金額ヲ記載シタル手形ヲ振出し銀行ヲシテ其需ニ應シテ現金ヲ支拂ハシムルノ證券ナリ而シテ此切手作成ノ方式ト其行使ノ方法トハ一見殆ント爲換手形ニ類似スレトモ其振出ニ付キテハ銀行ト約定シタル方式ヲ遵守スヘキコト並ニ其振出人支拂人及ヒ滿期日等ニ付キ大ニ制限ヲ加ヘテ以テ恰モ現金ト同視サレタルニ因リテ視

ルモ其性質ニ於テハ爲換手形ト幾分ノ相異アルヲ論テ埃タサルナリ

小切手モ亦廣ク社會ニ轉帳流通セシムルヲ期スルモノナレハ此點ニ於テハ手形ト同一ノ信用證券ナルノミナラス其裏書授受ヲ爲シ得ヘキモノナレハ之カ裏書讓渡ヲ爲スニ付キテハ記名式若クハ無記名式ニテ流通セシムヘキモノトス記名式ナルトキハ手形ト同一方法ニ因ラサル可カラサルモ無記名式ナルトキハ唯リ小切手ノ引渡ノミナ以テ授受スルヲ得ヘシ是レ他ナラス元來法律上ニ於テ小切手ハ殆ント現金ト同一ニ看做サレタルヲ以テ其讓渡方法モ甚々之ヲ簡略ニシ小切手トシテノ性質ニ恰當ナラシメント爲シタルモノナリ次章ニ詳論セリ

## 第二章 手形ノ方式及ヒ効力

### 第一節 手形ノ要件

手形ノ作成ニ關スル要件如何

手形ハ書面契約ニシテ殊ニ法律カ其作成ニ付キ其要件ヲ舉示シタルヲ以テ各自ノ隨意ニ因リテ作ルヲ得ス必ス規定ノ要件ニ從ヒテ作成セサレハ其効ナキモノナリ即チ第六九九條ニ於テ左ノ三要件ヲ必要トセリ

第一 手形ハ一定ノ金額カ支拂ハルヘキ旨ヲ明記シタルヲ

第二 手形ハ指圖式又ハ無記名式ニテ振出スヲ

第三 手形ニハ條件ヲ附スルヲ得ス

第一 手形ニハ必ス唯々一定ノ金額ノ記載ナラサル可カラス例ヘハ一万圓トカ五千圓トカノ如ク之ヲ記載セサル可カラス而シテ此記載シタル金額カ或ハ増減變更セラレタル場合ノ如キハ最早手形ノ効力ナキモノナリ即チ手形ノ金額一万圓ヲ二萬圓トシ

三十圓ヲ五十圓ト爲シタル如キモノハ之ヲ流通スルヲ能ハス此故ニ手形ハ恰モ一圓紙幣カ何所ニテモ一圓トシテ通用スルカ如ク其使用ヲ爲スニ當リテハ其狀況紙幣ト同一ナラサル可カラヌ是レ手形ニハ一定ノ金額ヲ記載セサル可カラサル所以ナリ今茲ニ左記ノ如キ書付アリトセン

遺法ノ手形

米百五十石也

右來ル十月三十日大阪ニ於テ御引渡可致候也

此書付ノ如キハ假令ヒ之ヲ以テ賣買ノ契約証書ト爲シ得ルモ手形トシテハ其効力ナシ何トナレハ前記ノ書付ニハ金額ノ記載ナケレハナリ

第二 手形ノ指圖式トハ讀ンテ字ノ示ス如ク恰モ兵隊ニ向ヒテ

指圖式及  
ヒ無記名  
式

指揮官カ指揮スル様ニ手形ノ受取人ヲ指定スルコトナリ故ニ其指示セラレタ受取人カ金額ノ支拂ヲ請求セハ其支拂ヲ受ケ得ヘク又其代理人タリトモ同シク支拂ヲ受ケ得ヘキモノニシテ此點ニ於テハ紙幣ト少シク異ナル所アリ紙幣ハ一旦之ヲ受取リタルトキハ之ヲ何人ニテモ紙幣トシテ之ヲ交付シ得ヘシト雖モ手形ニ在リテハ指圖式ナレハ其指圖人ノ外他人ニハ之ヲ流通スルヲ得ス然レモ其手形カ無記名式ナルトキハ手形ニ付キ一定ノ受取人ナク唯々其手形ノ所持人ニ支拂フヘキモノナル故ニ何人ト雖モ其手形ヲ受理シ金錢ノ支拂ヲ受クヘシ從テ紙幣ト相異ナル所ナキナリ

斯ノ如ク手形ヲ作ルニハ一定ノ方法ニ因リテ之ヲ作成スヘキモノナルカ故ニ社會ノ各人ハ憂慮セス之ヲ作成シ又受取リ亦之ヲ

手形トシテ流通スルノ便利ハ法律ノ與ヘタル賜ナリ然リ而シテ此方法ハ法律ノ指命スルモノナレハ一私人カ勝手ニ之ヲ變更スルコトヲ得サルハ勿論ナリ丁度學校ノ教師カ生徒ニ對シ試験ノ答案ニハ斯ノ如ク書クヘシト指命シタルニ拘ラス自身隨意ニ作りタルトキハ少シモ點數ナキカ如ク法律ノ命令シタルコトヲ用非ス之ヲ作りタルトキハ手形ノ効力ナキコト知ルヘキナリ

第三 條件トハ未必條件ニシテ語ヲ換ヘテ言ヘハ未タ當事者ニモ知ラレサル事柄ヲ過去ノ如クニシテ契約スルヲ云フ例ヘハ今日夕刻ニ雨カ降レハ傘ヲ貸ストカ又明日熱田ニ船カ附ケハ汝ニ金ヲ貸ストカ若クハ何丸カ何地ヨリ入港セハ支拂スルトカ云フカ如キハ皆未來ノ事ニ屬シ當事者ノ心ニモ豫メ知ラレサル事ナリ故ニ此ノ如ク未確實ナル條件ヲ手形ノ文句ニ記載シテ金額ノ

手形ノ支拂ニハ條件ヲ得ス

支拂ヲ契約スルコトヲ許サズ即チ此ノ如キ手形ヲ發行スルヲ得サルモノナリ假令ヒ是等ノ事カ豫メ通報等アリテ知り得ルニモセヨ船ノ入港ノ如キハ或ハ途中暴風雨ニ遇ヒ或ハ難船等ノ患ナキコトヲ豫知ス可カラス然ラハ是レ曖昧不確實ノ事柄ナリ是故ニ斯ノ如キ條件ヲ手形ニ附シタルトキハ契約ハ成立スヘキモノニアラス換言セハ此ノ如キ爲換手形ハ手形タルノ効力ナキナリ此他ニ手形作成ニ付キテ注意スヘキ法則及ヒ手形面ニ記載スヘキ條件アレハ次節手形作成ノ所ニ説述スヘシ

### 第二節 手形及ヒ小切手ノ作成並ニ効力

凡ソ手形ヲ有効ニ轉帳流通セシメント欲セハ法律ノ命スル所ニ從ハサル可カラサルコトハ前既ニ之ヲ説ケリ尙ホ其作成ニ付キテ注意スヘキハ左ノ三要則ナリ

第一則 手形ニハ法律上ノ要件ニ從ヒ規定ノ諸件ヲ記載スルコト

第二則 手形ニハ法律ノ規定シタル諸件ノ記載ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケサルコト

第三則 手形ノ文言カ互ニ牴觸スルモ法律ノ許セル方法ヲ以テ此牴觸ヲ取り除キ得ヘキコト

第一則 法律上トハ本邦ニアル全体ノ法律ヲ指シタルニアラスシテ現行商法中ノ第十二章即チ手形法ヲ謂ヒタルモノニシテ又要件トハ前節ニ於テ説述シタル第六九九條ニ規定セル要件即チ是レナリ故ニ手形ヲ作ルニハ該要件ニ從ヒ本法第七一六條及ヒ第八一一條ノ諸件ヲ記載スヘキナリ而シテ其第七一六條ニ依レハ爲換手形ノ作成ニ付キテ記載スヘキ事項ハ左ノ五件アリ

爲換手形  
ニ記載ノ  
條件

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 爲換金額但文辭ヲ以テ記載スヘシ

第三 支拂人ノ氏名

第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ヒ満期日並ニ支拂地

第五 振出人ノ署名捺印

右事項ニ基キ之カ書式ヲ示シ以下逐次之ヲ記載スヘキ理由ヲ説明セン

爲換手形

第何號

一金壹千圓也

右金額來ル何月何日(御一覽次第)御一覽後何日目(乙殿又ハ其

指圖人(此手形持參人へ)此手形引換御支拂可被下候也

名古屋市何町何番戸

年月日 振出人 甲 某 印

東京市何區何町何番地

(支拂人) 丙 某 殿

第一項 振出ノ年月日ヲ記スルノ要ハ支拂日ヲ手形ノ日附ヨリ何日目ト定メタルトキ又一覽拂ノ手形ニ在リテハ呈示期限ヲ掲ケサルカ爲メ法律ニ依リ日附後二ケ年ヲ以テ滿期日ト爲スガ如キ其支拂期日ヲ起算スルニ缺ク可カラサルモノニシテ振出ノ場所ヲ掲グルハ爲換義務ノ負擔即チ手形面記載ノ金額ヲ支拂フ義務ハ通常振出地ノ法律ニ從フヘキモノニシテ此場所ノ記載ナキ

トキハ支拂地ノ法律ニ從ハサル可カラス例ヘハ内國ヨリ振出シタル手形ナルモ其振出地ノ記載ナキトキハ支拂地ナル外國ノ法律ニ從ハサル可カラス然ルトキハ内國ノ法律ニテハ無効トナリ只タ外國支拂地ノ法律ニ由リテノミ有効トナルカ如シ

第二項 文辭ヲ以テ金額ヲ記スルノ要ハ數字ニテハ錯誤ヲ生シ易ク且ツ變造スルノ虞アルニ因ル假令ヘハ一千圓二千圓又ハ三千圓ト記スルカ如シ金額ハ之ヲ壹貳參四五六七八九拾等ノ文字ヲ以テ記スルヲ要ス若シ金額ヲ記載セサルカ或ハ之ヲ記スルモ單ニ西洋數字若クハ日本數字ニテ一〇〇〇或ハ2,000ト記載シタル如キハ手形法上之ヲ禁セリ

然レトモ其手形面ニ記載シタル金額ノ文辭即チ文言カ振出地ニ於テ通用セサルモ支拂地ニ於テ通用スル貨幣ノ語ナルトキ或ハ

之ト反對ニ振出地ニテ通用スルモ支拂地ニ於テ通用セサル語字ヲ以テ記載シタルモ手形ノ効力ニハ敢テ關セス何トナレハ是レ前ノ場合ニ於テハ受取人カ其到着地(支拂地)ニ通用スル貨幣ノ確定額ヲ知ランコトヲ欲シ又後ノ場合ニ在リテハ支拂地ノ相場ヲ知ルコト能ハサルニ依リ振出地ノ貨幣ノ數額ヲ以テ其標準ト爲サント欲スルニ因ルモノナレハナリ

第三項 支拂人ノ氏名ヲ記載スヘキノ理由ハ之ヲ辯明セスシテ瞭然タリ何トナレハ此支拂人ナケレハ手形ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ由リ其効ナクシテ流通セサレハナリ而シテ茲ニ一ノ注意スヘキコトアリ他ナラス法文ニハ單ニ氏名トアレトモ必スシモ之ニ限ルヘキニアラス商法全部施行ノ曉ニ至レハ商號ヲ以テ商家ヲ代表スルモノナルニ依リ此氏名ニ換フルニ商號若クハ社名

ヲ用非テ差支ナキコト勿論ナリ然レトモ其支拂人ノ氏名ヲ記シタル手形ハ其商人ノ身分ヲ目的トシテ商號ヲ目的トセサルカ故ニ假令ハ其商號ヲ他人ニ讓渡シタル場合ニ在リテハ其義務ハ讓受人ニ係ラスシテ讓渡人ニ係ル可キモノナリ之ニ反シテ商號ヲ目的トシテ振出シタル手形ハ其讓受人ニ係ルヘキモハトス

第四項 受取人ノ氏名又ハ其指圖人若クハ所持人ニ支拂フヘキ旨及ヒ滿期日並ニ支拂地ヲ記載スヘキコトヲ要ス爲換手形ハ通常第三者ヲ以テ受取人ト爲スヘキモノニシテ振出人自身ノ指圖ニテ振出スコトハ例外ナリ而シテ此受取人ニ三種アリ第一手形面ニ氏名ヲ記シタル人第二其指圖人(裏書讓受人)第三所持人(持參スル人)是レナリ然ルニ元來手形ニハ振出人受取人及ヒ支拂人ナル三者ノ具備スルコトヲ要スト雖モ亦其手形ヲ記名式(受取人ノ氏名又ハ其指圖人ヘ支拂フ

可<sup>○</sup>旨<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>記<sup>○</sup>或ハ無記名式(所持人へ支拂フヘキ旨ヲ記シ別ニ氏名ヲ記載セサルモノ)ト爲シ振出ス  
 得ルノミナラス時ニ受取人ノ氏名ノミヲ記シ裏書讓渡(指圖人)ヲ禁スル旨ヲ附記シテ振出ス  
 得ルモノナレハ是等ノ事項ヲ記載スルニアラサレハ如何ナル人カ受取人ナルカ又其手形ノ金額ハ如何ナル人ニ支拂フヘキヤ支拂人ニ於テ手形ノ引受及ヒ支拂ヲ爲スニ當リ其分別ニ苦シムコトナシトセサルナリ而シテ序ニ茲ニ一言ヲ辯センニ支拂フヘキ旨トハ手形面ニ記載シタル金額ヲ無條件即チ彼レ是レノ文句ナシニ支拂フコト命スル如キノ文詞ヲ云フ故ニ貨物又ハ勞力等ヲ以テ支拂フヘキ旨ヲ記シ或ハ依頼若クハ希望等ノ語辭ヲ記載シタルトキ例ヘハ此手形御一覽次第米何石支拂可被下候ト書シ又ハ支拂有之度依頼候也トカ或ハ支拂相成度希望候也ト記シタルカ如キ手形ハ其効ナキモノト

セサルヲ得ス  
 満期日トハ所謂手形ノ支拂期日ニシテ必ス振出ノ日附ヨリ以後ナラサル可カラサルコト言テ竣タスト雖モ其満期日ノ記載ナキ手形ハ一覽ノ時ヲ以テ満期ト爲ルコト法文ニ規定セルヲ以テ此日附ナキモ無効トナラサルナリ然リ而シテ此満期日ヲ記載スルノ要ハ其翌日ヨリ起算シテ時効期間ヲ計算センカ爲メナリ  
 支拂地ヲ掲載スルハ義務履行ノ際ニ至リ必要アルカ爲メナリ若シ夫レ此支拂地ノ記載ナカラシカ其爲換ハ何レノ日何レノ地ニ於テ支拂ハルヘキヤ知ル能ハス故ニ之カ記載ヲ欲クヘカラスト雖モ必シモ支拂地何々トカ又ハ何々地支拂トノ特記ヲ要セス唯タ支拂人某地何某ト記載セハ其肩書地ヲ以テ支拂地ト看做スモノナリ不拂ノ場合ハ裁判所ノ管轄ヲ定ムルニ最モ必要トス然レ



他所拂手  
何形トハ如

トモ手形ニハ他所拂總論ノ部ニ述ヘシ他拂ナル語トハ相異セリ  
 手形ナルモノアルヲ以テ此場合ニハ特ニ其支拂地ヲ記載スヘキ  
 ナリ即チ此他所拂手形トハ支拂人ノ住所以外ノ場所ニ於テ支拂  
 フモノニシテ單ニ支拂人ノ住所以外ノ地丈ケテ記載シタル場合  
 ニハ支拂人其地ニ至リ義務ヲ履行スヘキモノトス之ニ反シテ支  
 拂人外ニ他所拂人及ヒ其住所ヲ記シタルトキニ此他所拂人ニ於  
 テ支拂フヘキモノナリ  
 第五項 振出人ノ署名捺印ヲ要ス即チ爲換振出人タル義務者ノ  
 署名ヲ必要トスヘキハ言ヲ竣タス何トナレハ此署名ナキトキハ  
 手形ノ効力ナキノミナラス償還請求ノ時ニ當リテ其義務者ヲ知  
 ルコトヲ得サレハナリ而シテ此署名ハ必スシモ氏名ノミニ限ラス  
 商號(商法實施ノ時ニ至ラハ商號ヲ用非得ルハ勿)ヲ用ウルコト妨ケス  
(論却テ之ヲ用ウルチ正則ト爲スニ至ラン)

金額以上ニ五  
圓以上ニ五  
アラシクニ  
ハ無記名  
ノ手形ト  
爲スヲ得

然レトモ此捺印ヲ要スルハ唯リ我國古來ノ慣行ニ從フモノニシ  
 テ總ヘテノ義務者ノ義務書類ニハ必ス捺印アルコト必要トスル  
 ト異ナラサルナリ故ニ歐洲各國ノ如キ此慣例ナキノ國民就中英  
 國ノ如キ私印ヲ押捺シタルモノハ無効ナリト規定アル國ニ在リ  
 テハ却テ之カ疑惑ヲ生セシムルノ恐ナシトセサルナリ而シテ我  
 國ニ在リテモ外國ニ於テ支拂フヘキ手形ヲ振出す者ハ亦之ヲ必  
 要トセサルヤ明ケシ  
 序ニ茲ニ一言センニ無記名式ノ手形ヲ振出サントスル者ハ必ス  
 貳拾五圓以上ノ金額ナラサル可カラス故ニ其以下ノ金額ニ在リ  
 テハ無記名ニテ振出すコト能ハサルナリ  
 第二則 既ニ前則ニ於テ說述シタルカ如ク法律カ規定シタル要  
 件即チ第七一六條第八一一條ノ事項ヲ手形ニ記載セサル可カラ

サルハ勿論之ト同時ニ亦違法ノ諸件即チ法律ノ記載スヘキヲ命シタル事項ト牴觸スル事項即チ語ヲ換ヘテ言ヘハ法律ノ許サ、ル事柄ヲ記載スルヲ得サルモノナリ例ヘハ第七一六條第二號ニ從ヒ手形面ニ金額若干圓ト記シタルニモ拘ラス一方ニ於テ第六九九條ノ規定ニ反シ右金額ハ公債証書又ハ商品若クハ何々ノ物件ヲ以テ御支拂可被下ト記載スルカ如キ或ハ何月何日拂又ハ一覽後何日拂ト明記シナガラ右期日迄ニ爲換資金御領收相成候ハ、直チニ御支拂可被下候ト記載スルカ如キ若クハ或ル條件ヲ附シタル等ノ手形ハ其義務不確實ノモノナレハ法律ハ之ヲ禁スルヲ以テ手形タルノ効果ナキモノナリ

第三則 手形ノ文言カ彼是互ニ衝突スル場合例ヘハ手形ノ本文ニ金百八拾圓トアリテ其傍ニ數字ニテ一五〇トアルカ如ク其間

三拾圓ノ差異アル場合又ハ振出人甲カ大阪ナル支拂人乙ニ宛テタル手形面ニ右金額貴殿ニ於テ御支拂可被下ト記シナガラ其支拂地(他所)手形タルヲ明ニセス)チ東京又ハ京都ト記載シタル場合若クハ一覽拂又ハ一覽後何日目拂ノ手形ト爲シタルニ拘ラス更ニ其支拂期日何月何日ト記載シタル等ノ前後矛盾セル場合ヲ謂フ然レトモ其牴觸スル所法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クヲ得ヘキトキハ手形ノ効力ニ於テ少シノ影響ヲモ及ホスヲナキナリ之ニ反シ之カ取除クヲ得サルトキハ手形ノ効ナキモノナリ即チ法律ノ許セル方法トハ前例金額ノ差異ノ如キ金百八拾圓トアルハ所謂法律ニ文辭ヲ以テ記スヘシトノ要件ニ適スルモ其數字ニテ金額ヲ複記スルヲハ法律ノ命セサル所ナルヲ以テ夫ノ第七〇七條ノ重要ナラサル附記トシテ一〇五ハ之ヲナキモノト

考へ手形ノ効力ヲ妨ケサルモ支拂地及ヒ支拂期日ノ牴觸ノ如キハ何レモ重要ナルモノニシテ之カ主客輕重ノ判別ヲ爲シ難ク從テ之ヲ取除クヲ得サルヲ以テ其手形ハ到底無効タルヘキモノナリ

約束手形ニ記載スヘキ事項及ヒ書式左ノ如シ

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ

支拂フヘキ旨

第四 満期日

第五 振出人ノ署名捺印

約束手形  
ニ記載ノ  
條件

約束手形

第何號

一金貳百圓也

右金額御請求次第何月何日限貴殿又ハ其指圖人(此手形持參ノ人)へ手形引換無相違御支拂可申候也

大阪市何區何町

振出人 甲 某 印

乙 何 某 殿

年月日

約束手形ニ記載スヘキ要件ハ右ノ如シト雖モ夫ノ爲換手形ノ要件ト殆ント同一ニシテ唯々支拂人ノ氏名及ヒ支拂地ノ規定ナキヲ以テ異ナリトス是レ約束手形ニ在リテハ支拂人ハ振出人ナルヲ以テ敢テ怪シムエ足ラス其他一般ノ原則及ヒ法規ハ爲換手形ノ爲メニ説明シタル所ト異ナルヲナシ故ニ其小異ノ點ニ付キテ

ハ第一章ニ於テ述ヘタル性質効用ヲ了得スルニ至ラハ自然ニ氷解スルヲ易々タルノミナラズ尙ホ後ニ至リテ詳説スヘキニ依リ茲ニハ唯々其書式ヲ示スノミ  
小切手作成ノ書式及ヒ事項左ノ如シ

小切手

第何號

一金參百圓也

右金額乙殿又ハ此切手持參ノ人へ御支拂可被下候也

年月日

甲 某 印

丙 銀行

御 中

小切手ニ  
記載ノ條  
件

右書式ノ如ク其事項ハ

- 第一 振出ノ年月日
- 第二 金額但文辭ヲ以テ記スヘキヲ
- 第三 受取人ノ氏名又ハ持參人へ支拂フヘキ旨
- 第四 振出人ノ署名捺印

以上四事項ヲ記載スヘキモノナリト雖モ其方式用紙ハ銀行ト約定シタル者ヲ使用セサル可カラス而シテ小切手ニ於テ注意スヘキハ如何ナル場合ニ在リテモ一覽拂ト爲スニ非サレハ振出スル能ハス又其支拂人ハ必ス銀行ナラサル可カラス故ニ銀行以外ノ者ニ對シテ小切手ヲ振出シタルトキハ時ニ或ハ爲換手形ト爲ルカ又ハ民事上ノ一證書タルニ過キサルナリ尙ホ小切手ニ付キテハ説明スヘキ事項アレトモ後ニ讓リテ之ヲ述ヘントス

### 第三節 手形ニ關スル人ノ能力權限及ヒ

#### 偽造變造ノ効果

爲○換○義○務○ニ○付○キ○テ○ノ○能○力○ハ○法○律○ハ○商○ヲ○營○ム○コ○ト○得○ル○各○人○ハ○爲○換○  
 義○務○ヲ○負○フ○コ○ト○得○ト○規○定○セ○リ○故○ニ○爲○換○義○務○ヲ○負○フ○能○ハ○サ○ル○者○  
 ハ○亦○商○ヲ○營○ム○コ○ト○得○サ○ル○者○ト○言○フ○コ○ト○得○ヘ○シ○然○ラ○ハ○商○業○上○ノ○無○  
 能○力○者○換○言○セ○ハ○營○業○ヲ○爲○ス○資○格○ナ○キ○者○カ○署○名○捺○印○シ○テ○振○出○シ○タ○  
 ル○手○形○ハ○無○効○ナ○ル○ヤ○否○ヤ○ト○云○フ○ニ○決○シ○テ○之○カ○爲○メ○全○部○ノ○無○効○ト○  
 ナ○ル○ヘ○キ○モ○ノ○ニ○ア○ラ○ス○例○ヘ○ハ○手○形○ノ○振○出○人○ハ○未○成○年○者○ニ○シ○テ○商○  
 ヲ○營○ム○コ○ト○得○サ○ル○モ○其○手○形○ノ○支○拂○人○カ○成○年○者○ニ○シ○テ○支○拂○ノ○引○受○  
 ヲ○爲○シ○タ○ル○ト○キ○ハ○其○引○受○人○ハ○振○出○人○カ○無○能○力○者○ニ○シ○テ○爲○換○義○務○  
 ヲ○負○フ○コ○ト○能○ハ○サ○ル○モ○ノ○ナ○リ○ト○ノ○口○實○ヲ○以○テ○支○拂○ヲ○拒○ム○コ○ト○得○ス○  
 又○振○出○人○裏○書○讓○渡○人○能○力○者○ニ○シ○テ○手○形○ノ○支○拂○人○無○能○力○者○ナ○ル○場○

幼者及癡  
 白痴及瘋  
 禁治產者  
 ハ手形ニ  
 對シ如何  
 ナル關係  
 ナル關係  
 ヤ有スル

合ニ於テモ此振出人裏書人ハ支拂人ノ無能力者ナルコト言立テ  
 所持人ニ償還ノ義務ヲ免ル、コト能ハサルモノナリ而シテ法文ニ  
 爲換義務ヲ負フトハ振出人支拂人裏書人引受人又ハ保證人トナ  
 リテ手形金ノ支拂又ハ償還ノ義務ヲ負フコト云フ  
 代理ナルモノハ委任者ノ權限内ニ於テ委任者ノ氏名ヲ以テ或ル  
 行爲ヲ爲スヘキモノナレハ被委任者ノ氏名ヲ記スル時ト雖モ其  
 肩書ニ委任者ノ氏名ヲ附記スルヲ通規ナリトス然ルニ爲換上ニ  
 於テ他人ヨリ委任ヲ受ケスシテ他人ノ代理人トナリ手形ヲ振出  
 シタルトキ又ハ之ニ反シ他人ノ代理人ナルニモ拘ラス委任者ノ  
 氏名ヲ肩書セスシテ單ニ代理人即チ自分ノ氏名ノミヲ記シ振出  
 シタル手形ノ効力ニ付キテハ固ヨリ有効ナルヘシト雖モ其責任  
 ハ何人カ負擔スヘキヤト云フニ前ノ無委任ノ場合ハ無論其代理

偽造及  
手形  
ノ効用  
如何

人其義務ヲ負フヘキナリ是レ何人ト雖モ他人ノ所爲ニ因リテ自  
己ニ義務ヲ負フコトナシトノ原則ニ由リテ然ルナリ然レトモ次ノ  
場合ハ委任者被委任者間ニ代理ノ契約アリテ事實上ハ代理者ヲ  
ルニ止マル故ニ一般ノ原則トシテハ委任者其責務ヲ負フヘシト  
雖モ此爲換法ニ於テハ手形面ノ文句ヲ以テ判定スヘキ特別ノ主  
義ニ因リテ其署名者ナル代理人其義務ヲ負擔スヘキモノナリ是  
レ第三者ハ是等ノ關係ヲ知ルコト能ハス唯タ手形ノ文面ノミニ據  
ルニ過キカレハ此關係ヲ不知ノ第三者ニマデ影響セシムルコト  
得サルヲ以テナリ手形面ニ委託ノ旨ヲ記セス別ニ書面ヲ以テス  
ルモノハ其双方間ニ於テノミ効力アルナリ  
手形ノ偽造トハ他人ノ氏名ヲ(或ハ商號)濫用シテ真正ノ手形ノ如  
ク装ヒ造リタル詐欺手形ニシテ變造トハ一個ノ現存スル所ノ手

何

形ノ金額若クハ支拂期日等ヲ變更シタル手形ナリ是等ノ手形モ  
其効力ニ至リテハ手形トシテ通用スヘキモノナリトス若シ然ラ  
ズシテ之ヲ無効トスルトキハ善意(此偽造變造者ニモ非ス又是等ノナル  
ノコトヲ知ラス讓受ケタル者)ナル  
手形ノ所持人ヲ害スルニ至ルヲ以テ法律ハ偽造變造ノ手形ト雖  
モ善意ニテ授受シタル者ノ眞ノ署名ヲ無効ト爲サス故ニ支拂人  
一度之ヲ引受ケタルトキハ所持人ニ其金額ヲ支拂ハサル可カラ  
ズ又裏書讓渡人モ其情ヲ知ラサル善意ノ所持人ニ對シテハ償還  
ノ義務ヲ免ル、コト能ハス然レトモ其氏名ヲ盜用セラレタル者又  
ハ變造セラレタル者ハ此偽造ニ由リテノ義務及ヒ變造セラレタ  
ルニ因リテ發生スル義務ヲ負フヘキモノニアラス例ヘハ甲ナル  
詐欺者カ乙ナル人ノ氏名ヲ濫用シテ手形ヲ振出シ之ヲ丙ニ讓渡  
シ丙ハ之ヲ善意ニテ讓受ケ又善意ナル丁ニ讓渡セリトセンニ此

偽造及ヒ  
 變造ノ手  
 形タリト  
 モ善意ノ  
 受授ナル  
 トキハ尙  
 ホ有効ナ  
 リヤ

場合ニ手形ハ善意ナル丙及ヒ丁ノ間ニハ無効トナラサル故ニ支拂人之ヲ引受ケタルトキハ後日ニ至リ偽造ナルヲ覺知スルモ其支拂ヲ拒ムヲ得ス若シ又支拂人カ其手形ノ偽造ナルヲ知リテ引受ヲ爲サ、ルトキハ所持人タル丁ハ裏書讓渡人丙ニ償還請求ヲ爲スヘキモノニシテ丙ハ之ヲ拒ムヲ得ス然ラハ丙ハ亦之ヲ其讓受ケタル甲ニ對シテ償還請求ヲ爲スヘキカ將タ手形面ニ署名シアル乙者即チ氏名ヲ盗用セラレタル者ニ向ヒテ請求スヘキヤト云フニ此乙者ハ他人ノ所爲ニ因リテ自己ニ義務ヲ負擔スヘキモノニアラサルヲ以テ丙者ハ乙者ニ對シテ請求スルヲ得ス此故ニ偽造者タル甲ノ氏名カ手形ニ署名シアルトキハ丙ハ償還請求ヲ甲者ニ求ムヘシト雖モ若シ其署名ナキトキハ丙者ハ甲ニ爲換上ノ請求トシテ償還ヲ求ムルヲ能ハス唯タ單ニ一般民

四〇

事上ノ請求ニ因ルカ又ハ私訴トシテ刑事ニ附帶シ其偽造者ニ對シテ請求スルノ外途ナキナリ然リ而シテ變造ノ場合ニ在リテハ振出人ハ初メ自己カ記載シタル眞ノ爲換金額ニ付キテハ其義務ヲ免ル、ヲ能ハサルノ差異アルノミ故ニ前例ノ場合ニ於テ乙者千圓ノ手形ヲ振出シタルニ甲者之ヲ二千圓ニ變造シテ丙丁等ニ讓渡シ遂ニ丁者カ支拂ヲ拒絕サレタルニ依リ之カ償還ヲ請求スルトモ他ノ千圓ニ就キテハ之ヲ負擔セサル故ニ之ヲ甲者ニ對シテ請求セサル可カラス又此變造ノ場合ニ於テハ其變造者ニ對シ爲換上ノ請求トシテ義務ノ履行ヲ求ムルヲ得ルハ勿論ナリ上來說述シタル如ク支拂人カ其偽造又ハ變造ノ手形ナルヲ知リタルモ其善意ノ者ニ對シテ一旦引受ヲ爲シタルトキハ最早支

拂ヲ拒ムヲ得スト雖モ其所持人カ善意者ニ非ス即チ偽造者又ハ  
 變造者ナルカ將々其偽造或ハ變造手形ナルコノ情ヲ知リ居ル者  
 ニ對シテハ假令ヒ引受ヲ爲シタル後ニテモ之ニ對シテ異議ヲ述  
 ヘ支拂ヲ拒絕スルコトヲ得ヘキナリ  
 亦支拂人カ偽造變造手形ニ對シテ支拂ヒタルトキ振出人即チ氏  
 名ヲ盜用セラレタル人ニ對シ該爲換ノ資金ヲ請求スルコトヲ得  
 ヘキヤト云フニ法律ニハ偽造變造ニ因リテ義務ヲ生セサル旨規  
 定セルヲ以テ觀レハ之ニ應スルノ義務(變造ノトキ真正ノ振出金  
 額ニ付キ義務アルハ勿論ナリ)ナキモノナリ  
 茲ニ一言スヘキ事アリ他ニアラス夫ノ手形ノ要件ヲ外觀ノ爲メ  
 ノミ記入シタルトキ例ヘハ支拂人トシテ記載シアルモ其人ナキ  
 カ或ハ既ニ現存セサル故人ナルカ又ハ全ク信用ナキ人名ヲ記シ

タルカ如キ若クハ住所ノ虛偽支拂地ノ假設ノ如キ手形ノ表面上  
 ニ於テハ其要件ヲ具備スト雖モ其名實相異ナル場合ニ於テモ其  
 情ヲ知ラサル者ノ爲メニハ手形タルノ効力アルコトハ恰モ偽造變  
 造ノ場合ニ於ケルト異ナルコトナキモ之ヲ知リ居ル者ニ對シテハ  
 法律ハ有効ナル手形ト看做サス且ツ假設手形ト偽造トヲ混同セ  
 サルヲ要ス何トナレハ假設ナルモノハ架空ナルモノヲ記載セル  
 モ偽造ハ他人ノ氏名ヲ盜用スルモノナレハ本來虛無ナルニアラ  
 カレハナリ

### 第三章 時効

#### 第一節 時効ノ目的及ヒ其期間

抑時効トハ刑法ノ所謂期滿免除ト同一ニシテ又民事ニ於テ現ニ  
 出訴期限ト云フ唯々其用語ヲ異ニセルモノナリ而シテ此時効ニ



手形ノ三ノ年時  
効ヲ三ノ年時  
ト定メタ  
ル由メタ  
何理由如

四四  
一般時効ト特別時効ノ別アリ即チ手形ニ關スル時効ハ特別時効ナリ凡ソ手形ナルモノハ商業社會ニ於テ恰モ紙幣ノ如ク轉帳流通セシメ以テ商取引上ノ好機具ト爲ルモノナレハ其効力ヲ幾年ノ後ニマテ持續セシムルトキハ手形ノ支拂人タル者ハ常ニ其支拂ヲ擔保センカ爲メ之ニ應スル金額ヲ永久ニ保持セサルヲ得サルニ因リ其弊害遂ニ經濟上ニ波及スルニ至ラントス斯ノ如キ事ハ商業家ノ忌ム所亦法律ノ欲セサル所ナリ是ヲ以テ歐洲大陸諸國ノ法律ハ皆之ヲ認ム而モ其期間ニ至リテハ各國一様ナラス今之ヲ例セハ英米ハ六年佛伊ハ五年澳獨ハ三年ニシテ我國モ亦三年ト規定セリ然リ而シテ此年限ハ各人之ヲ私ニ定ムルヲ能ハス必ス法律ノ規定ニ依ラサル可カラス且ツ手形ニ關スル時効ノ期間ハ昔シ往來ノ不便交通ノ未開ナリシ時代ニ在リテハ或ハ長期

チ可トセシナラン現今通信ノ道大ニ發達シ汽車汽船及ヒ郵便電信ノ設備アルヨリ短期ノ時効却テ必要ナルニ至レリ時効ノ制度ノ必要ナルヲ既ニ此ノ如シ然レトモ是レ畢竟權利者ノ懈怠ヲ戒ムルニ過キサルモノニシテ就中手形ニ關スル時効ハ其權利者ヲシテ緩慢ニ爲カシメカラシムルカ爲メナリ然ルニ尙ホ其權利ヲ行ハスシテ法律ノ規定セル時間ヲ默過セハ手形ノ權利ハ消滅シテ無効ト爲ルヘキハ言テ竣タス是レ所謂法律ハ權利ノ上ニ眠ル者ヲ保護セストノ原則ニ從ヒタルモノナリ時効ヲ分チテ二トナス即チ取得時効消滅時効是レナリ取得時効トハ法定ノ時間ヲ經過スルニ從ヒ權利ヲ發生スルモノニシテ消滅時効トハ權利ヲ失ヒ之ヲ回復シ得サルニ至ルモノナリ又時効ナルモノヲ法律ニ規定スル所以ノモノハ既ニ前述シタル

カ如シト雖モ畢竟スルニ財産上ニ係ル紛議ヲ成ルヘク速ニ止息セシメントスルニ外ナラス民法中時効ノ最長期間ハ二十年トシ最短期ハ即時時効トス商法ノ一般ノ時効ハ六年トシ其中爲換法ノ時効ハ三年トス斯ノ如ク時効期間ニ於テ等差ヲ附シタル所以ハ所謂社會ニ紛議ヲ成ルヘク速ニ止息セシメントスルニ於テ其緩急ノ區別アルカ故ノミ但民法中ノ時効ニモ爲換時効ヨリ短キモノアリ例ヘハ生産者卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價ノ如キ二年間之ヲ請求セサルトキハ時効ニ係リテ請求ノ權ヲ失ヒ藝人ノ賃金運送賃旅店料理店娯遊場宿泊料飲食料立替金及ヒ動産ノ損料ノ如キハ一年間之ヲ請求セサルトキハ其權利ヲ失フカ如シ而シテ新民法ノ實施セラレサル今日ニ於テハ尙ホ之ニ因ラス又未タ時効トハ云ハス出訴期限ノ名稱ニ從

フモノトス

### 第二節 時効ノ起算

時効三年ノ計算方法如何

本法第七一二條ニ依レハ爲換手形ノ支拂人及ヒ約束手形ノ振出人ニ對スル請求權ハ滿期日ヨリ三ケ年又手形ノ所持人若シハ裏書讓受人ヨリ振出人或ハ前裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ハ請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三ケ年ヲ以テ時効ニ係ルト規定セリ此三年ノ起算ニ付キテハ左ノ區別ニ依リ詳論セン

第一支拂請求權ニ付キテノ時効起算 先ツ滿期日即チ支拂期日ニ付キテ一言センニ此滿期日ニハ期日拂一覽拂一覽後期日拂ノ三種アリ而シテ期日拂トハ手形面ニ記載シアル支拂期日ヲ謂フモノニシテ一覽拂トハ所持人カ引受ノ爲メ呈示シタル日ヲ以テ支拂期日トナリ又一覽後期日拂トハ同シク引受ノ爲メ

所持人カ手形ヲ呈示シタル日ヨリ手形面ニ記載シアル日數ヲ經過シ終ル日ヲ以テ支拂期日トナルモノナリ故ニ振出人カ何日間内ニ呈示スヘキヲ手形ニ記載シ置キタルトキハ其日數内ニ必ス引受ノ爲メ呈示セサル可カラサルモ其他ノ場合ニ在リテ一覽拂一覽後期日拂ノ手形ノ所持人ハ何年ノ後ニ引受ノ爲メ支拂人ニ呈示スルモ其自由ナルカ如シト雖モ法律ハ斯ノ如キ緩慢ナルヲ欲セサルヲ以テ第七五七條ニ於テ其呈示期間ヲ定メタリ是ヲ以テ手形ニ呈示期間ナキモノハ此條ニ從フヘキハ勿論其期間アルモノト雖モ二年ヨリ永キ期間ヲ定メタルモノハ法規ニ背クヲ以テ其効ナシ此二年ノ期間ニ短縮セラハキナリ是ヲ以テ手形ノ呈示ヲ怠リ定規ノ期間ヲ經過スルトキハ償還請求權ヲ失フノミナラス手形トシテハ支拂要求權

ヲ發生セサルモノナリ

夫レ手形ニハ斯ノ如キ呈示期間ナルモノアリテ其滿了ノ日ハ即チ支拂期日ナリ故ニ時効ノ發生期日語ヲ換ヘテ言ヘハ其進行チ初ムル日ハ支拂期日ノ翌日ヨリ起ルモノナリ故ニ一覽拂若クハ一覽後期日拂ノ手形ヲ所持スル者カ手形ノ振出日附ヨリ起算シテ五年間經過スルトキハ時効ニ罹ルノ割合トナルナリ

抑手形ハ呈示期間ノ滿了シタル翌日ヨリ起算シ又ハ振出日附ノ翌日ヨリ起算シテ三年又ハ五年ヲ經過スルトキハ時効ニ罹リ支拂ノ要求權ヲ失フト雖モ是レ單ニ爲換上ノ權利トシテハ失効ヲ來スノミニシテ一般民法上ノ權利ヲ失フモノニアラス之ニ因リテ自己ヲ利シタル者ニ對シ其利得ノ限度ヲ要求シ得

ヘキモノタルヲ忘ル可カラス  
 第二償還請求權ニ付キテノ時効起算 償還請求權トハ手形ノ所  
 持人又ハ裏書讓受人カ支拂人ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求シ  
 タルモ之ヲ拒ミタルニ因リ拒證書ヲ作り振出人若クハ裏書讓  
 渡人ニ對シテ其金額ヲ返却シ吳レト要求スル權利ナリ而シテ  
 此通知ヲ爲シタルトキハ其日ヨリ償還請求ノ權利ヲ發生スル  
 チ以テ時効ノ起算モ此日ヨリ始メテ進行スヘキナリ然ルニ其  
 後三年ヲ經過スルモ尙ホ緩慢ニ附シテ之ヲ要求セサレハ則チ  
 時効ニ罹ルト雖モ前ノ場合ト同シク一般民法上ノ權利トシテ  
 之カ爲メニ失ハス尙ホ其利得シタル者ニ對シ爲換資金ノミノ  
 返還ヲ請求スルヲ得ヘキモノナリ  
 又手形カ數人間ニ轉讓渡サレタルトキ最後ノ讓受人カ支拂

ヲ拒マレテ拒證書ヲ作り逆戻シテ順次償還請求ヲ爲スノ場合  
 ニ其次ノ讓受人以下ハ更ニ拒證書ヲ作ルヲ要セス唯タ其通  
 知ヲ爲スノミニテ足リ其權利ヲ發生スルモノナレハ時効モ其  
 日ヨリ起算スヘキモノトス此外豫メ拒證書ノ作成免除アル手  
 形カ不拂トナリタルトキモ之ヲ作ルヲ要セス單ニ支拂人カ  
 支拂ヲ爲サ、ル旨ノ通知ヲ爲スニ因リ請求權ハ發生スルヲ以  
 テ時効モ亦其日ヨリ起算シテ三年經過セハ失權ヲ來スモノト  
 ス

### 第三節 時効ノ中斷及ヒ消滅

第一時効ノ中斷 中斷トハ時効ノ進行ヲ中止スルモノニシテ之  
 カ爲メ中止シタル日ヨリ更ニ三年間ハ時効ニ係ラサルモノナリ  
 而シテ時効ノ進行ヲ押止メンニハ如何ナル方法ヲ行フヘキヤト

時効ヲ中  
斷セント  
欲セハト  
何如ト

云フニ訴訟ヲ起スカ又ハ其他ノ裁判上ノ手續ヲ爲スノ外手段ナ  
シ故ニ之ヲ中斷セント欲セハ民事訴訟法第四九四條以下ニ基キ  
爲換訴訟ヲ起スカ又ハ其他ノ裁判上ノ手續ヲ爲サ、ル可カラ  
又此裁判上ノ手續ニ二種アリ曰ク其一ハ支拂ヲ停止シタルトキ  
其債權者ハ商法第九七八條ニ因リ破○産○決○定○ノ○申○立○ヲ○爲○ス○モ○ノ○其  
二ハ手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタルトキ民訴第  
七七七條以下ノ規定ニ基キ公○示○催○告○ノ○申○立○ヲ○爲○シ○以○テ○手○形○ノ○所  
持者ニ對シ其權利ノ届出ヲ促シ若シ一定ノ期間ニ届出テサルト  
キハ其手形ノ失効ヲ宣告スルヲ請求スルモノ是レナリ之ヲ要  
スルニ時効中斷ニ付キテノ原由ハ以上ノ手續ヲ盡カ、ル可カラ  
ス此ノ如ク法律カ其規定ヲ設クル所以ノモノハ蓋シ爲換ニ關ス  
ル紛議ヲ速ニ止息セシメ手形ノ流通ヲシテ圓滑且ツ確實ナラシ

爲換訴訟  
トハ如何

メントノ趣旨ニ外ナラサルナリ  
因ニ云フ茲ニ爲○換○訴○訟○ト○ハ○如何ナルモノカチ一言セントス夫レ  
此爲換ノ訴訟ナルモノハ其權利ノ基ク所判明ニシテ簡易ニ曲直  
ヲ斷シ得ヘキモノナルノミナラス最モ迅速ニ結了セシムルニア  
ラサレハ商取引上債權者ニ困難ヲ生スル事情アルモノナルカ故  
ニ訴訟法ハ普通ノ訴訟ト其取扱ヲ異ニシ格段ナル簡短手續ヲ規  
定セリ然レトモ債權者ハ爲換訴訟ニ依ラス普通ノ訴訟手續ニ依  
リテ亦訴訟ヲ提起シ得ルハ勿論ナリ然レトモ爲換訴訟トシテ起  
訴スルトキハ迅速ニ事件ノ結了ヲ告クルノミナラス被告ヨリ妨  
訴ノ抗辯ヲ以テ本按ノ辯論ヲ拒マル、トナク又其攻撃防禦ノ方  
法ハ獨リ證書ノ提出ノミチ以テ爲スヘキモノナレハ人證其他ノ  
証據方法ヲ許カス加之被告ヨリ反訴トシテ反對ノ訴求ヲ受ケス

且ツ若シ一タヒ此爲換訴訟ニ於テ敗訴スルモ尙ホ普通ノ訴訟ヲ起シ其權利ヲ主張シ百般ノ方法ヲ盡シ得ルノ利益アルモノナリ又此爲換訴訟トシテ起訴センニハ其訴狀ニ爲換訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ記載スルヲ及ヒ手形ノ原本若クハ謄本ヲ添付スルヲ要ス尙ホ此他ノ詳細ナルヲハ民事訴訟法第五編ニ就キテ參照スヘキナリ

第二時効ノ消滅 消滅トハ夫ノ時効期限ヲ經過シタルニ由リテ權利義務ノ全体ヲ皆無ニ爲サシムルモノト考フ可カラス茲ニ説カントスル消滅トハ唯タ手形義務ヲ脱シ更ニ民法ノ義務ニ移ルナ云フナリ即チ裁判所ノ判決ニ因リ爲換上ノ義務者カ敗訴シ其判決カ確定スレハ敗訴者タル義務者ハ從來ノ爲換義務ハ此時ヲ以テ消滅スルカ故ニ免脱ヲ受クルト雖モ更ニ普通義務トシ新タ

ニ義務ヲ負擔セサル可カラス是レ所謂義務ノ更改ナルモノナリ是ヲ以テ其時効モ短期ナル三年ノ範圍ヲ脱シテ普通ノ時効ナル長期ノ部内ニ入り其支配ヲ受クルニ至ル然レモ單ニ訴訟ヲ起シ又ハ其他ノ裁判上ノ手續ヲ爲シタルニ止マリ判決ヲ受ケサル間ハ依然爲換タルノ性質ヲ變改セス唯リ時効ノ進行ヲ中止シタルニ止マルヲ以テ此中止ノ日ヨリ更ニ三年ヲ經過セハ時効ニ罹ルヘキナリ又相手方ト明約ニ依リ爲換義務ヲ新義務ニ變改シタルトキ語ヲ換ヘテ言ヘハ契約ヲ以テ爲換義務ヲ他ノ證書ニ書キ替ヘタルトキモ同シク爲換ノ時効部内ヲ脱出シテ民法ノ時効部内ヘ移ルモノナレハ爲換上ノ義務ハ此時ニ於テ消滅スルモノト謂フヘシ

然レトモ普通義務ハ判決若クハ明約ニ由リ更改アルモ單ニ時効

チ中斷スルノミニ止マリ敢テ消滅スヘキモノニアラスト雖モ爲  
換上ニ在リテ義務ノ更改アルトキハ義務消滅スト謂フチ妨ケス  
是レ爲換義務ニ在リテハ特別時効ノ性質上然ラシムルモノナリ  
以上説述ノ如ク時効消滅ノ場合ニ於テ其新タニ生シタル債權即  
チ權利ハ通常商事ノ時効ヲ適用スヘキヤ將タ民事ノ時効ニ從フ  
ヘキヤナ説カンニ夫ノ裁判所ニ於テ言渡シタル確定判決ハ同シ  
ク一ノ證書ナリト雖モ只々之ト異ナルハ裁判ノ執行力チ有スル  
ニ在リ之ニ反シテ契約上ノ證書ハ公正證書ナルカ又ハ一度裁判  
チ經タル者ニアラサレハ此執行力チ生セサルモノナリ夫レ然リ  
裁判ノ執行力ナルモノハ普通民法ノ時効ヲ適用スヘキモノナル  
ニ因リ其新債權モ亦之ニ從フヘキヤ論チ竣マス然レトモ民法ノ  
實施ナキ今日ハ現行出訴期限法ニ依リ五ケ年ヲ以テ時効ニ權ル

ヘキモノトス

#### 第四節 時効ノ効力及ヒ失効ノ結果

第一時効ノ効力 凡ソ債權カ時効ニ係リタルトキハ失權チ生ス  
ルモノナリ法律ハ元來時効ニ係リタルモノハ既ニ其債務チ辨濟  
シタルモノト看做セリ是故ニ債權者ニ於テ出訴スルモ被告即チ  
債務者ハ證據チ提出スルニ及ハス一言以テ辨濟チ了ヘタル旨并  
ニ時効ニ係リタルヲ主張スレハ其義務チ免レ却テ訴訟ニ於テ  
勝利チ得ルモノナリ是レ他ナラス被告ハ時効期間ノ經過ニ依リ  
辨濟セリトノ證據チ擧グル責チ免レタレハナリ是ヲ以テ手形法  
ノ時効モ亦法律ハ支拂チ了シタルモノトノ推測チ下セリ然リト  
雖モ畢竟手形法ノ主義トスル所ハ債權者ノ懈怠チ戒メ爲換上ノ  
權利關係チ速ニ結了セシメテ以テ手形流通ノ迅速ト圓滑トチ希

時効ニ係

圖スルニ外ナラサレハ假令ヒ失權ノ効果ヲ受クルニ至リタル場  
合ト雖モ既ニ本章第二節ニ於テ説明シタル如ク支拂人若クハ振  
出人ニ對シ手形ノ時効ニ係リタルニ因リ人ノ利得ト爲リタル爲  
換資金請求ハ之ヲ普通ノ訴訟ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ蓋シ普  
通ノ債權カ時効ニ係リタル場合ト手形法ノ時効ニ係リタル場合  
トニ於ケル失効ノ結果ニ於テ大ナル差異アル所以ナリトス而シ  
テ此請求ヲ爲サンニハ支拂未濟ナルコトノ證明ヲ要スヘキハ勿論  
其請求額ハ支拂者現ニ自ラ利得シアル限度ニ非サレハ請求シ得  
サルモノナリ

爲換ニ關スル金額ニ三種ノ區別アリ曰ク第一爲換所持人カ買受  
ケタル代金第二支拂人ノ支拂フヘキ金額第三爲換資金是レナリ  
第一ノ爲換賣却代金ノ請求權ニ付キテハ手形法ノ時効ヲ適用ス

ヘキモノニ非ス何トナレハ此場合ニ於ケル爲換ノ授受ハ普通ノ  
賣買取引ニシテ手形法ニ關係ナケレハ手形法ノ羈束ヲ受ケスシ  
テ民事ノ時効ニ依ルヘキモノナリ之ニ反シテ第二第三ノ爲換金  
額及ヒ資金ノ如キハ手形法ノ時効期間ヲ經過セハ其失權ヲ生ス  
ルモノナリ必竟爲換上ノ請求權ハ二個ノ場合ニ喪失スルモノニ  
シテ即チ時効ニ係リタルトキト手形法ニ定メタル行爲ヲ怠リタ  
ルトキ例ヘハ支拂ヲ拒マレタルトキ拒證書ヲ作ラカリシ等ノ場  
合是レナリ即チ第二第三ノ金額及ヒ資金ノ請求權ハ皆手形法ノ  
時効ニ關スル規程ニ從ハサルヲ得ス  
第二失効ノ結果 手形ヨリ生スル權利ヲ時効ニ由リテ失ヒ又ハ  
法律即チ手形法ニ規定シタル手續ヲ怠リタルニ由リテ失ヒタル  
トキハ如何ナル結果ヲ生スヘキ乎此事ニ就キテハ既ニ本節第一



ノ効力ノ部ニ於テモ少シク之ヲ概説セシ所ナリ抑モ手形ナルモノハ最モ短簡ナル一片ノ證書ヲ以テ巨額ノ金額ヲ容易ニ且ツ確實ニ移轉セシメ其間常ニ間違ナカラシメンカ爲メ特ニ法律ヲ以テ一方ハ之ヲ戒飾シ他ノ一方ニ於テハ之ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノナレハ普通民法若クハ商法ノ規定ヲ以テ未ダ足レリトセス別ニ此法律ヲ以テ種々ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ夫レ然リ故ニ一旦本法ノ手續ヲ怠リ手形上ノ權利ヲ失ヒタリト雖モ敢テ民法上ノ權利マテ喪失セシムルモノニアラス語ヲ換ヘテ言ヘハ手形法ノ權利ヲ失フト雖モ尙ホ民法上ノ權利ヲ有スルモノナレハ爲換資金ノ如キ又ハ此爲換ニ由リテ己ニ利益ヲ得タル支拂人振出人若クハ裏書人ニ對シテ所持人ハ毎ニ不當利得ナル名義ノ訴ヲ起シテ之カ請求ヲ主張シ得ヘシ然レトモ其請求ハ振出人

時効ニ係  
リタル手  
形ヲ以テ  
爲換資金  
ヲ取戻ス  
ルニ如ク  
方法如何

カ資金ヲ取戻シタルニ由リテ利得ヲ爲セシ額又ハ支拂人裏書人カ其支拂ヲ爲サ、ルニ由リテ己ニ利益ヲ得タル限度即チ是等ノ者カ現ニ利益ヲ得ツ、アル額ニ非カレハ請求スルコトヲ得ス換言セハ所持人ノ損失ヲ招キタル金額ヲ毎ニ全ク取戻スコトヲ得ルト云フニアラサルナリ利得ノ限度トハ如何ナルモノナルカヲ詳説スルニ先チ取戻シタル資金トハ如何ナル資金ナルカヲ一言セシ夫レ爲換ノ振出入カ手形ヲ振出シタルトキハ支拂人ハ其爲換ノ資金ヲ送付スヘキモノナルカ故ニ一旦之ヲ支拂人ニ渡シタルモ其手形ノ所持人時効期間内ニ支拂ヲ請求セサルトキハ振出人ハ既ニ之ヲ支拂フヘキノ義務ナシト云ヒテ支拂人ニ對シ曩キニ送付シタル爲換ノ資金ヲ取戻ス場合ヲ謂フナリ而シテ又利得ノ限度トハ必スシモ手形面ニ記載ノ金額ト同額ニ非スシテ手形ノ

所持人カ支拂人ニ對シテ支拂ノ請求ヲ爲サ、リシニ因リ又ハ振出人若クハ裏書人ニ向ヒテ償還ノ請求ヲ爲サ、リシニ由リテ此等ノ支拂人振出人若クハ裏書人カ現ニ利益ヲ得ツ、アル額ノ請求ヲ主張シ得ルヲ謂フモノナリ是ヲ以テ其利子ノ如キハ必スシモ之ヲ請求シ得ルモノト謂フ可カラス又手形面ハ千圓ノ金額ナルモ其内若干圓ハ盜取セラレ若クハ保存ノ爲メ若干手数料トシテ支拂ヒタルトキハ現實ノ利益ハ其殘額ナルニ依リ夫レ丈ノ引渡ヲ受クヘシ是レ權利者ハ懈怠ノ結果トシテ當然此損害ヲ忍ハサルヲ得ス

#### 第四章 爲換手形ノ發行

##### 第一節 國際間ノ爲換

爲換ハ貨幣運搬ノ勞ト其危險ヲ避クルノ利益アリテ內國各地ニ

手形ノ關係ニ  
係數國ニ  
跨リタル  
トキハ何  
レノ國ノ  
法律ニ從  
フヘキヤ

行使セラル、ノミナラス又其關係者數邦ニ跨リ只タ二三ノ國人ニ止マラサルヲ屢々之アリ之ヲ例セハ甲ナル名古屋ノ商人英國倫敦ノ乙ナル商人ニ爲換ヲ振出シ其地ニ於テ引受アリタル後米國紐育ノ丙ナル商人ニ裏書讓渡ヲ爲シタル場合ニ丙ハ其支拂ヲ英國ノ乙ニ請求シタルモ之カ支拂ヲ拒マレタルヲアラン然ルトキハ丙ナル手形ノ所持人ハ之ヲ名古屋ノ振出人甲ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニ至ルコアルヘシ斯ノ如キ場合ニ在リテハ其何レノ國ノ法律ニ服從スヘキヤハ頗ル必要ノ問題ニ屬ス而シテ各國多少其法律ヲ異ニセルヲ以テ之カ規定ナクハ遂ニ爭論ノ歸着スル所ナキニ至ラン是ヲ以テ我商法ニハ之カ原則ヲ掲ケテ曰ク「爲換義務ノ負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル地ノ法律ニ從ヒ其記載ナキトキハ債務者ノ住所ノ法律ニ從フ又其履行ニ關シテハ

履行スヘキ地ノ法律ニ從ヒ之ヲ定ムト第七〇九條ニ規定セリ即チ此負擔ニ關シテトハ手形ノ振出、裏書、引受等ノ如キ義務ヲ負フ契約ニ關スルヲ謂ヒタルモノニテ記載地トハ署名シタル地換言セハ振出地ト謂フニ同シ故ニ是等ノ義務ニ就キテハ支拂地ノ法律ニ適セサルモ振出地ノ法律ニ適スルヲ以テ無効トナラス例ヘハ我國ノ法律ニ從ヘハ(商法施行條例第二十六條ニ由リテ外)振出人ノ捺印ナキ手形ハ効力ナシト雖モ歐米各國ノ法律ニ於テハ之ヲ必要トセサルカ如シ亦債務者トハ振出人、保證人、裏書讓渡人、引受人等ニシテ皆爲換ニ就キテ義務者ナリトス履行ニ關シテトハ義務ノ履行ヲ求ムル場合ニ必要ナル手續ニ關スルヲ謂フ例ヘハ日本ヨリ振出シタル爲換ナルモ支拂地即チ履行地方佛國ナルトキハ日本ノ法律ニ從ハスシテ佛國ノ法律ニ從フヘキモノナルニ付キ

其支拂期日カ日曜日又ハ其他一般ノ休日ニ當レハ其前日ニ支拂ヲ求メ得ルカ如ク其支拂金ハ佛國ノ貨幣ニテ支拂ヲ受クルカ如キコト是レナリ然ルニ之ニ反シテ支拂地方日本ナルトキハ休日ノ翌日ニ非サレハ請求スルコトヲ得サルカ如キ差異アルモノトス(但シ國ニ依リテハ支拂金、種類ヲ法律ニテ硬貨ヲ用ヰヘシ紙幣ヲ用ヰルコト得ストノ制限アレトモ我國ニテハ特別契約アル場合ノ外ハ普通商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂フコトヲ得ヘキナリ)

抑モ我邦鎖國攘夷ノ往時ハ知ラス苟モ開國貿易ヲ初メタル今日ハ唯々我國獨別ノ法律ヲ維持センコト頗ル難シ殊ニ商法中手形法ノ如キハ各國普通ノ法理ニ基キテ制定スルニ非サレハ殆ント各國ト通商貿易ヲ爲スコト能ハサルヘシ是レ本邦カ夙ニ商法ノ實施就中手形法等ノ施行ヲ急キタル所以ナリ

## 第二節 手形ノ振出

爲換手形  
ニ於テ振  
出ノ同  
時支拂  
人ト爲  
場合如何

手形ナルモノハ人ノ債權債務ヲ表示スルニ就キテ最モ簡短ナル  
證券ナリ而モ確實信用アルノ證券ナリ隨テ其記載ノ要件モ簡明  
ナラサル可カラズ即チ第二章ニ於テ作成ノ書式ヲ説示スルニ當  
リ其記載スヘキ事項ヲ詳論シタル如ク其一要件ヲ缺キタルトキ  
ハ手形タルノ効力ヲ有セサルナリ要スルニ手形ニハ人ト時ト場  
所トニ注意シ尙ホ金額ト支拂ノ方法トヲ注意スレハ足レリ  
爲換手形ニ三者ノ關係者アルコト及ヒ例外ノ場合アルコトハ上既ニ  
説明セリ然ルニ此例外ノ場合ニ於テ振出人カ自己ノ指圖ニテ振  
出シ又自己ニ宛テ、振出ストキ例ヘハ振出人甲ハ支拂人乙ニ宛  
テタル手形ヲ振出シ其手形ニ「右金額甲ニ支拂可被下」ト書シ又ハ  
甲カ右金額乙ニ支拂可被下」ト記載シテ其支拂人ヲ自己ニ宛ツル  
カ如キヲ云フ斯ノ如ク振出人ト受取人トヲ兼テ又ハ振出人ト支

拂人トヲ兼タルトキハ一見約束手形ニシテ爲換手形ノ觀ナキカ  
如シ然レトモ是レ一人ニテ本支店ヲ兼ヌル場合又ハ數多ノ店舗  
ヲ各地ニ有スル場合ニ往々見ル所ナリ一人數個ノ資格ヲ有スル  
トキニ往々此種ノ手形ヲ發行スルコトアルナリ  
爲換手形ハ裏書ヲ以テ何人ニモ讓渡シ得ル故ニ其受取人ハ必ス  
シモ一定ノ人ニアラサルコトハ既ニ之ヲ説ケリ而シテ手形ノ指圖  
人トハ讓渡シタル人ヲ謂ヒ指圖セラレタル人トハ讓受ケタル人  
ヲ指ス以上ノ如ク爲換ニハ記名ヲ必要トスルニモ拘ラス金額貳  
拾五圓以上ニ至レハ無記名式ヲ以テ振出スコトヲ得ヘシ此無記名  
ノ爲換手形ニ在リテハ「右金額此手形持參ノ人へ支拂可被下」ト記  
載スルモノナリ

以上爲換手形ニ記名ト無記名トノ區別ヲ附シタルハ畢竟金額貳

拾五圓以下ノ手形ニ無記名流通ヲ許ストキハ殆ント紙幣ヲ發行  
 スルト同一ノ結果ヲ生シ貨幣經濟ヲ亂スノ虞アル故ニ此境界ニ  
 由リテ制限ヲ附シタルモノニ外ナラス加之約束手形ニ在リテモ  
 同シク無記名式ニテ振出スコトヲ得ルモノナルヲ以テ若シ之ヲ許  
 ストセハ振出人ト支拂人トヲ兼有セル約束手形ニ於テハ其弊害  
 ヲ生スルノ度愈々多キニ至ラン然レモ貳拾五圓以上ノ手形ニ在  
 リテハ其金額稍々大ナルヲ以テ自然社會公衆ノ注意ヲ惹起シ嚴  
 密ナル調査ヲ遂クルニ至ルヲ以テ此手形ノ濫行ヲ憂フルノ要ナ  
 シ是ヲ以テ法律ハ貳拾五圓以上ノ金額ハ之ヲ無記名ニテ發行ス  
 ルコトヲ許シタル所以ナリ

支拂地ニ付キテハ支拂人ノ住所ニ於テ支拂ヲ普通トスレトモ  
 又他所拂手形ト稱シテ之ニ異ナル場合アリ即チ手形面ニ特ニ支

拂人ノ住所以外ノ地ヲ以テ支拂地ト定メ記載アルトキハ其地ニ  
 於テ支拂ハサル可カラス然リ而シテ此他所拂手形ニモ他人拂自  
 己拂ノ別アリ即チ他人拂トハ支拂人ノ住所以外ノ地ヲ支拂地ト  
 シテ記載スルト同時ニ更ニ其他ノ氏名カ記載アルトキハ其者カ  
 其地ニ於テ支拂スヘキ義務ヲ負フヲ謂フモノニシテ自己拂トハ  
 唯々支拂地トシテ支拂人ノ住所以外ノ地ヲ記シタルニ止マリ更  
 ニ他人ノ氏名ノ記載ナキニ因リ支拂人自己カ其地ニ至リ支拂ス  
 ヘキ義務ヲ負フモノ是レナリ例ヘハ余カ二見ノ浦ニ海水浴セル  
 某ニ送金ノ爲メ名古屋ノ甲銀行ニ爲換資金ヲ振込ミ二見浦拂ノ  
 手形ヲ得ンコトヲ求メタルニ該銀行ハ二見浦ニ取組先ナキヲ以  
 テ松坂ノ乙銀行ニ宛テ二見浦拂トシテ振出シタルトキハ即チ他  
 所拂手形ノ自己拂ナリ然ルニ乙銀行ニ宛テ二見浦乙銀行代理店

某拂トアルトキハ是レ他人拂ニシテ所持人ハ代理店某ニ就キテ支拂ヲ受クヘキナリ茲ニ注意スヘキハ總論ノ部ニ述ヘシ他拂手形トハ所謂他人拂ヲ意味スヘキモノニシテ此他所拂手形ト同一視ス可キモノニアラス

### 第三節 組爲換手形及ヒ贍本

組爲換トハ番號ヲ附シタル數通ノ手形ヲ振出ス場合ヲ云フ其必要ハ遠隔ノ地ニ在リテ手形ノ延着ヲ恐ル、カ又ハ盜難紛失若クハ不可抗力等ニ由リテ之ヲ失フノ憂アルトキニ數通ノ手形ヲ振出シテ其内ノ一通ハ必ス速ニ受取人ニ達センコトヲ期スルモノナリ然レトモ受取人此内ノ一通若クハ數通ヲ他人ニ裏書讓渡ヲ爲シタル場合ニハ支拂人ニ於テ其何レノ手形ニ對シテ支拂ヲ爲スヘキヤニ疑ヲ生スルコトアリ法律ハ此場合ニ於テハ左ノ如キ規定

組爲換ノ取扱如何

ヲ設ケタリ即チ支拂人ニ於テ數通中ノ一通ニ對シテノミ引受ヲ爲シタルトキハ曩キニ其手形ノ所持人カ呈示シタルニ因リ引受ヲ爲シタル手形ヲ交付セサル場合ハ例ヘハ手形ノ所持人カ數通ノ手形中引受ヲ受ケタル手形ニ非サル他ノ無引受ノ手形ヲ提出シテ支拂ヲ要求スルカ如キ場合ニハ引受人即チ支拂人ハ其支拂ヲ拒ムコトヲ得ルトセリ之ニ反シテ數通ノ手形ニ引受ヲ爲シテ渡シタル場合ニハ其引受ヲ爲シタル手形悉皆ノ呈示ヲ爲スニ非サレハ亦其支拂ヲ爲スヘキ義務ナキモノトセリ然レトモ手形ノ所持人ニ於テ其引受アル手形ニ對シ擔保ヲ供シタルトキハ此規程ニ據ラス支拂ノ義務アルモノト爲セリ  
爲換手形ノ贍本トハ所謂獨逸ノ寫爲換ト同一ニシテ即チ手形ノ原本ノ通り寫シタルモノ是レナリ而シテ此贍本ハ手形ノ各所持

人即チ手形ノ受取人又ハ讓受人ニ於テ其需用ニ應シテ作ル可キモノナリ要ハ手形ヲ賣却セントスルニ當リ原本ヲ示ストキハ紛失ノ虞アルニ由リ其贖本ヲ以テ示サントシ若クハ盜難其他ノ事故ニ因リ原本ヲ紛失シタルトキ贖本ヲ以テ之カ證明ノ用ニ充テントスルカ如キ場合ニ證據力アルモノナリ

### 第五章 手形ノ讓渡及ヒ引受

#### 第一節 裏書

凡ソ手形ハ融通ヲ目的トスル證券ナルヲ以テ其所持人ハ皆之ヲ他人ニ讓渡スヲ妨ケス其讓渡人自ラ氏名ヲ記スル所以ノモノハ手形支拂ノ擔保人ト爲ルニ在リ其式左ノ如シ

表面ノ金額某殿又ハ其指圖人へ御支拂可被下候也

年月日

讓渡人 氏名 印

此ノ如ク裏書ヲ爲シ多數ノ人ニ轉帳シテ裏書スヘキ餘白ナキニ至ラハ補箋ヲ貼附シテ行用スルモ妨ナシ只タ補箋貼附者ハ本紙ト補箋ト貼リ合セノ上ニ割印ヲ押捺スヘキヲ要ス手形ハ此ノ如クシテ又ハ無記名ニテ數人間ニ流通スルモノナレハ此讓受人タルモノハ毎ニ支拂人振出人若クハ裏書人ノ財産及ヒ信用ノ如何ヲ知ルヘキヲ必要ナリ若シ然ラサレハ支拂人破産スルカ又ハ他ノ事由ニ因リテ支拂ヲ拒ミタルトキ前ノ裏書讓渡人或ハ振出人モ破産若クハ其他ノ事由ヲ以テ償還ノ請求ニ應セサルニ至ルコアレハナリ

裏書ニ其  
前日附  
ナ記スル

裏書ニハ其裏書スル日ヨリ前ノ日附ヲ記スルヲ禁止セリ之ニ違フモノハ偽造變造ノ刑ニ照シテ刑罰ヲ科スルト規定セルニ依リ最モ注意セサル可カラス此ノ如ク法律カ嚴格ナル制裁ヲ加ヘ

トキハ  
罰アル  
由如何  
理

タル所以ハ蓋シ破産ノ宣告ヲ受ケタル後其宣告ノ前ノ日附ヲ記シ手形ヲ讓渡ス如キコアリテ忽チ其債權者ヲ害スルニ至ルヲ以テナリ故ニ此規定ハ破産者若クハ無資力者ノ財産隠匿ヲ豫防スルノ精神ニ外ナラスト知ルヘシ

裏書  
ト通常  
買トノ  
如何  
差

手形ハ裏書若クハ無記名ニテ讓渡スモノニシテ無記名式ナレハ裏書ヲ爲サス白地ニテ流通セシムル故本節ニ説明スルヲ要セスト雖モ其讓渡ニ於ケル兩者ノ關係ハ通常ノ賣買ト異ナルコトナシ然レモ之ト一般動産ノ賣買トノ間ニハ多少ノ差異アリ其主要ナル點ヲ擧クレハ手形ノ讓渡ニ付キテハ其前所有者ノ權利ニ多少ノ瑕瑾アルモ或ハ其手形カ委托品等ニテ全ク他人ノモノナリシト雖モ法律上ノ裏書方式ニシテ正格ナル以上ハ讓受人ニ對シテ完全ノ所有權ハ移轉スルモノナリ故ニ眞ノ所有者ヨリ讓受ケタ

ルト同シク取戻サル、コトナシ之ニ反シテ動産ノ賣買ニ在リテハ是等ノ場合ニハ賣買解除セラレ眞ノ所有者ヨリ取戻サル、コトアルモノナリ

裏書ハ通常支拂滿期前ニ於テシ普通ノ讓渡ヲ爲スルニ必要ノ方法ナリト雖モ例外トシテハ滿期後ニ裏書シテ讓渡シ或ハ代理ノ爲メ若クハ擔保ノ爲メニモ裏書讓渡ヲ爲スコアリ即チ滿期後ノ裏書トハ支拂期限後ニ裏書スルヲ云ヒ代理ノ爲メトハ代人ヲ以テ手形金ヲ請求スルニ當リ別ニ委任狀ヲ作ラス唯タ手形ノ裏面ニ手形金受取ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲シ其權利ヲ委任スルヲ云ヒ擔保ノ爲メニハ借金ノ引當トシテ手形ヲ債主ニ交附スルトキ其手形金取立ノ委任狀ヲ添ヘス其手形ノ裏面ニ負債ノ引當トシテ之ヲ債主ニ渡シ置シ旨ヲ記シタル裏書讓渡ヲ爲スコアル是レナリ



又満期ニ爲リタル手形ノ裏書讓渡ハ讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ讓受人ニ移轉スルモノナレハ讓受人獨立シテ其權利ヲ行フヲ得ルモノナリ即チ此讓渡人ニ於テ有スル支拂請求權又ハ償還請求權等ノ如キハ皆之ヲ承繼スルモノナリト雖モ讓渡人ニ於テ或ル行爲ヲ怠リタル爲メ既ニ失ヒタル權利ハ此讓受人ニ於テモ亦之ヲ行使スルヲ得サルハ論テ俟タス其義務ニ於テモ同一ナリト雖モ讓渡人ノ負ハサリシモノハ之ヲ負擔スルニ及ハス而シテ獨立シテトハ讓渡人ノ代表者トシテ爲スニ非ス單獨ニテ爲換ノ義務者ニ對シ償還ヲ求メ得ルヲ云フナリ

代理請求  
場合如何

代理ノ爲メニスル裏書ハ上ニ説明シタル如ク其目的手形金請求ノ爲メニ讓渡ス旨ノ記載ナキトキハ眞ノ讓渡ト看做サル、チ以テ若シ此代理人ヨリ手形金ヲ請求シ之ニ應シタル第三者アルト

擔保ノ手  
形如何

キハ之ニ對シ眞ノ所有者ハ新タニ金額ヲ請求スルヲ得ヘシ其目的ノ記載アルトキハ讓受人ハ讓渡人ノ代務人ト同シク其記載ノ權利及ヒ義務ノミヲ行フヘキモノニシテ更ニ之ヲ他へ讓渡ヲ爲シ得サルナリ然リト雖モ特ニ其記載ナキ一般ノ代理ナルトキハ此限ニアラス

擔保ノ爲メニスル裏書ニ在リテモ其目的即チ手形金ノ取立ヲ別ニ委任セス「借金ノ引當トシテ債主ニ交付シ置ク爲メ讓渡ス」トノ記載ナキハ同シク眞ノ讓渡ト看做サル、モノナリ是ヲ以テ眞ノ所有者ハ此場合ニ第三者ニ對抗スルヲ得ス之ニ反シテ其記載アルトキハ之ニ對抗シ得ルノミトス而シテ其手形ヲ擔保トシテ占有スル債主ハ其支拂期日ヲ過スルモ負債主ヨリ本債務ノ辨濟ヲ受ケサルニ於テハ此時其手形ヲ更ニ他へ讓渡スヲ得ヘシ

ト雖モ否ラサルトキハ之ヲ讓渡スヲ得ス  
 裏書讓渡ノ順序ニハ其人名ニ間斷ナキヲ要ス例ヘハ甲ナル所  
 持人乙ニ讓渡シ乙ハ丙ニ丙ハ又丁ニ讓渡スカ如シ若シ否ラス末  
 尾丙ノ名前アルニ拘ラス更ニ甲ヨリ戊或ハ甲ヨリ丁ニ讓渡ス記  
 入アルカ如ク其間ニ聯絡ナキ手形ハ賍物ニ非スンハ遺失品タル  
 ナ免レヌ加之人名ニ間斷アル手形ハ償還請求權ヲ行使スルヲ得  
 得サルノ不都合アリ

爲換手形  
 指圖證券  
 上其權利  
 如何

爲換手形ト一般ノ指圖證券(倉荷証券、寄託物ノ受証書、保險証券、船荷証券等ヲ云フ)トノ差異ヲ示  
 カンニ此指圖證券カ其金錢ノ支拂又ハ物件ノ引渡ヲ目的トスル  
 コニ於テハ手形ノ只々金錢支拂ヲ目的トスルコト其狀殆ント相  
 距ルヲ無シト雖モ指圖證券ニ在リテハ其發行人ハ毎ニ支拂人々  
 ルモノナリ換言セハ振出人ハ毎ニ支拂人ノ位置ニ立ツモノナリ

此ノ如キハ手形ニ於テハ例外トス指圖證券ニ於テ支拂人若シ反  
 對債權ヲ有スルカ又ハ他ニ抗辨ノ理由アルトキハ其支拂ヲ拒ミ  
 或ハ物件引渡ヲ爲サ、ルコアルヘシ手形ニ至リテハ此ノ如キ餘  
 地ナシ支拂人ハ其領収シタル資金ハ振出人ト相殺ノ原因アルナ  
 以テ支拂ヲ爲スコトヲ得スト謂フ可カラス又ハ振出人ニ於テ資  
 金ハ既ニ支拂人ニ送付シタリトノ理由ヲ以テ償還ノ請求ヲ拒ム  
 コトヲ得サルカ如シ

爲換手形ノ振出人裏書讓渡人ハ手形ニ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ記  
 シテ發行シ或ハ讓渡スコトヲ得ルモノナリ然レトモ手形ノ受取人  
 ハ之カ爲メニ決シテ束縛サル、モノニ非サレハ之ニ裏書シテ流  
 通セシムルコト勝手タリ只々其之ヲ禁シタル者ニ對シテノミ償還  
 ノ請求ヲ爲シ得サルモノトス故ニ此禁止ノ記載ハ唯々之ヲ記シ

タル者ニ對シ効力アルニ止マリ一般ノ關係者ニ及ホスコト能ハ  
サルモノナリ

### 第二節 手形ノ引受及ヒ呈示

呈示及ヒ引受ノ如何  
 手形ノ呈示トハ手形ノ所持人カ其支拂期日ニ於テ儘ニ支拂ヲ受  
 ケンカ爲メ其前ニ支拂人ニ呈示シ其期日ニ至ラハ必ス支拂フト  
 ノヲ引受ケシムルノ手續ナリ此ノ如ク呈示ヲ爲シテ引受ヲ爲  
 サシムル所以ノモノハ他ナシ其手形ノ信用ヲ確實ニシテ流通ヲ  
 圓滑ナラシメンカ爲メナリ是故ニ呈示ノ目的ハ其引受ヲ爲サシ  
 メンカ爲メナルヲ要ス而シテ呈示ヲ爲サンニハ通常満期日前  
 ニ爲スヘキモノナリト雖モ是レ唯タ所持人ニ屬スル權利ニシテ  
 必ス爲サル可カラサル義務ニ非サルナリ然レトモ手形ニ別段ノ  
 記載アルトキハ之ニ從ヒ呈示スヘキハ勿論一覽後期日拂ノ手形

ハ遅クモ振出日附後二ケ年内ニ呈示セサル可カラス例ヘハ一覽  
 後三ケ月ニ支拂フヘキ手形ナルトキハ七月一日ニ呈示セハ其満  
 期日ハ十月一日ナリ故ニ此手形ハ先ツ呈示ヲ爲スニ非サレハ其  
 支拂期日ヲ生セス從テ永ク未決ニ置キ遂ニ支拂人ハ振出人ヨリ  
 送致セシ資金ヲ費消スル等ノ事アリテ長キ歳月中ニハ支拂人ノ  
 身代ニ盛衰アルノミナラス振出人ニ不利益ヲ與フルニ至ルヲナ  
 シトセス是ヲ以テ法律ハ所持人ヲシテ呈示スヘキ期限ヲ定メ若  
 シ之ヲ怠リタルトキハ償還請求ノ權ヲ失フモノト爲セリ  
 法律ノ謂フ別段ノ記載トハ手形面ニ振出ノ日附ヨリ幾日内ニ呈  
 示スヘシトカ又ハ引受ノ爲メニスル呈示ヲ要セス若クハ拒證書  
 ナ要セストカ或ハ何々ト記載シタル文句ノナキハト云フノ意  
 義ナリ而シテ法文ニ一覽後定期拂即チ一覽後何日目拂ナル手形

ニ就キテノミ呈示スヘキヲ謂ヒ一覽拂ノ手形ニ及ハサル所以  
ノモノハ他ナシ一覽拂ノ手形ニ在リテハ其一覽後ノ期限ヲ以テ  
支拂期日ト爲スモノニアラスシテ手形ヲ一覽スルト同時ニ支拂  
スヘキ義務ヲ生スルモノ語ヲ換ヘテ言ヘハ所持人カ支拂人ニ見  
セルト同時ニ支拂ヲ要求シ得ヘキモノナル故ニ之カ呈示ヲ必要  
ト爲サ、ルナリ

引受トハ手形ノ支拂人カ其所持人ニ對シテ振出人ノ指圖シタル  
如ク支拂ヲ受諾スルト手形面ニ表示スル行爲ナリ故ニ此引受ヲ  
爲サ、ル以前ニ在リテハ支拂人ト所持人トノ間ニ何等ノ權利關  
係ヲ有スルモノニ非ス然レモ其一度之ヲ受諾シタル以上ハ振出  
人ノ指圖ノ如ク手形ノ効力ヲ生シ支拂人ハ所持人ニ對シテ滿期  
日ニ至リ所定ノ地ニ於テ其金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノナ

リ然ルニ其引受カ幼者又ハ有夫ノ婦ナルトキハ無能力者ナルヲ  
以テ之ヲ適法ノ引受トシテ効力ナキモノナリ  
此引受ノ方式ハ手形面ノ左方ノ餘白ヘ左記ノ如ク記載シテ署名  
捺印スヘキモノナリト雖モ其最モ簡短ニ爲サソニハ單ニ署名捺  
印ヲ以テ足レリ

年月日 振出人 甲 某 印

何地

(支拂人) 丙 殿

本文ノ支拂義務引受申候也

年月日 (支拂人) 丙 某 印

引受ニハ一般引受ト特別引受ノ別アリ一般引受トハ手形ノ呈示  
 ナ受ケテ單ニ其支拂ヲ受諾スルヲ謂ヒ特別引受トハ支拂ニ條件  
 若クハ制限ヲ附シテ引受ヲ爲スヲ謂フ例ハ即日引受ヲ爲ス  
 ナ拒ミ又ハ一部ノ支拂ヲ引受ケ或ハ資金到達セハ支拂フトカ若  
 シハ滿期日外ノ日ニ於テ支拂フトカト云フカ如シ此ノ如キ引受  
 ニ對シ所持人ハ之ニ應諾スル義務ナシト雖モ此ノ如キ引受ヲ爲  
 シタル支拂人ハ其範圍ニ於テ羈束セラレ其義務ヲ負フヘキモノ  
 ナリ然レトモ手形ノ所持人ハ之ヲ承諾シ又ハ其一部支拂ヲ承知  
 シテ其殘部丈ニ對スル拒證書ヲ作り其部分ノ償還ヲ請求スルモ  
 或ハ全ク之ヲ承諾セスシテ全部ノ引受ヲ拒ミタルト同シク拒證  
 書ヲ作り悉皆ノ償還ヲ請求スルトハ一手形所持人ノ自由ナリ  
 トス

然リ且ツ一旦支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消シ得サル  
 モノナリ是レ法律ハ一旦引受ヲ爲シタル者ハ其爲換資金ヲ領収  
 シタルモノト看做セハナリ然リト雖モ其引受人ト所持人トノ合  
 意ニ因リ取消シ得ルコトハ例外ナリトス假令ヒ引受ヲ爲サシメ若  
 シハ合意ヲ以テ其引受ノ取消ヲ爲サシメタリト雖モ強暴或ハ詐  
 僞ノ手段ニ因リテ其事ヲ爲シタルモノナルトキハ當然其効ナキ  
 モノナリ

### 第三節 引受ノ拒絶及ヒ榮譽引受

第一引受ノ拒絶 支拂人若シ引受ヲ肯セサルトキハ所持人ハ公  
 證人又執達吏ニ就キテ拒證書ヲ作り其作成シタルコトヲ遅延ナク  
 振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知スルコトヲ要ス若シ之ヲ怠ルトキハ  
 償還請求權即チ爲換金額及ヒ拒證書作成ノ費用並ニ戻爲換ノ費

用等ハ滿期日ニ於テ支拂ヲ受クルカ爲メノ擔保ヲ此者等ニ對シテ請求シ得サルノミナラス第七三四條末項ノ所持人ナルトキハ其請求權ヲモ失フニ至ルモノナリ

引受拒絕ノ場合ニ關スル方  
法如何

此引受拒絕ノ場合ノ拒證書作成ノ通知ニ就キテハ法文ハ唯々單ニ遲延ナクト規定シテ別ニ日時ヲ限ラスト雖モ亦第七六七條ノ例ニ準シ引受拒絕ノ翌日ニ於テ爲スチ適當ト信ス故ニ遲延ナク此通知ヲ爲シタル所持人ハ右ニ説明シタル擔保ヲ請求スルヲ得ヘシ而シテ此所持人ヨリ振出人ニ至ルマテ逆戻シテ各裏書讓渡人ニ於テモ其自ラ擔保ヲ供シタルト否トヲ問ハス自己ノ前裏書人ニ對シテ所持人ト同一ノ權利ヲ行フヲ得ルモノナリ裏書人又ハ振出人若シ此通知ヲ受ケタルトキハ即時ニ金額ヲ所持人ニ支拂フカ或ハ之ヲ供托所ニ寄托スルニアラスンハ必ス請

一人ノ擔保ハ總員ノ効力アリ

榮譽引受ノ種類如何

求ニ應シテ適當ノ擔保ヲ所持人ニ供セサル可カラズ而シテ擔保ニハ抵當ヲ與フルカ又ハ保證人ヲ立ツルヲ要ス然レトモ擔保ノ提供者ハ其拒證書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ供スルノ義務ナキモノナリ裏書人又ハ振出人ノ一人カ爲シタル擔保若クハ寄托ハ總員ノ爲メニ効力アルモノトス而シテ擔保若クハ寄托ヲ爲シタル後爲換ノ引受アリタルカ又ハ爲換金額或ハ償還金額ノ支拂アリタルトキハ其擔保ヲ免シ寄托ヲ還付スヘキハ勿論手形ニハ支拂者ヨリ所持人ニ對シテ裏書讓渡ヲ求メ且ツ償還書ノ交付ヲ求ムルヲ得ルモノナリ

第二榮譽引受 榮譽引受トハ支拂人引受ヲ拒絕シタル時第三者又ハ支拂人自身カ振出人又ハ裏書人ノ名譽ヲ保持センカ爲メニ

信義上ニ於テ其引受ヲ爲ス場合ニシテ其場合三個アリ

第一 支拂人自身榮譽引受ヲ爲ス場合

第二 豫備支拂人榮譽引受ヲ爲ス場合

第三 關係ナキ第三者榮譽引受ヲ爲ス場合

第一 支拂人カ普通ノ引受ヲ爲サス榮譽引受ヲ爲ス所以ハ支拂人ニ於テ普通ノ引受ヲ爲ストキハ自己ニ損失ヲ招クノ虞アル場合ニ於テス然レトモ全ク之ヲ拒絶スルトキハ平素ノ親交アル振出人又ハ裏書人ニ對シ拒證書作成ノ費用并ニ戻爲換等ノ費用ヲ負ハシメ剩サヘ其名譽ヲ傷ケ信用ヲ墮サシムルノ嫌アルヲ以テ德義上此榮譽引受ヲ爲スモノナリ而シテ普通ノ引受ト榮譽引受トノ間ノ重ナル差異ヲ示セハ支拂人カ普通引受ヲ爲シタルトキハ既ニ爲換資金ヲ受取リタルモノトノ推定ヲ被リ榮譽引受ヲ爲

シタルトキハ未タ之ヲ受取ラストノ推測ヲ受クルノ相異アリ

第二 手形ヲ振出スニ當リ支拂人ニ於テ若シ之カ引受ヲ拒ムコトアルトキハ爲メニ自己ノ榮譽ヲ損フ可キヲ顧慮シテ豫メ手形而ニ豫備支拂人ヲ掲グルヲアリ而シテ此豫備支拂人ノ引受シ場合ハ手形ノ所持人支拂人ヨリ引受ヲ拒絶セラレタル時作成シタル拒證書ヲ添ヘ之ヲ豫備支拂人ニ呈示シ以テ其引受ヲ求ムルナリ故ニ所持人ハ此豫備支拂人ノ記載アリシ時ニハ設ヒ支拂人ニ於テ引受ヲ拒絶シタリト雖モ直チニ償還請求ノ擔保ヲ債務者ニ求ムルヲ得ス先ツ一度豫備支拂人ニ之ヲ呈示スヘキモノナリ然レトモ此支拂人カ同地ニアラサルトキハ斯ノ如キ手續ヲ爲サス直チニ支拂拒絶ノ手續ヲ爲シ得ヘシ之ニ反シテ支拂人自ラ榮譽引受ヲ爲ス場合ニ拒證書ヲ作成スルト否トハ所持人ノ自由ナ

リトス何トナレハ拒證書ナルモノハ唯々償還請求權發生ノ證據ニ過キサレハナリ

第三 關係ナキ第三者ニ於テ榮譽引受ヲ爲スノ理由モ亦同シク振出人又ハ裏書人ノ榮譽ヲ保ツ爲メニ之ヲ爲スモノナレハ矢張支拂人カ引受ヲ拒絶シタルノ事實ナカル可カラス故ニ此引受ハ所持人ニ於テ引受ノ拒證書ヲ作リタル時カ若クハ其後直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス

參加人トハ榮譽引受人ヲ指稱シタルモノニシテ此參加人カ引受ヲ爲スニ付キテノ方式ハ爲換手形ニ榮譽引受ノ旨ヲ記シテ之ニ署名捺印シ且ツ別ニ拒證書若クハ其附箋ニ榮譽引受ノ旨ヲ記載シ此事ヲ受榮譽者ニ通知スヘキモノナリ此榮譽引受ノ旨ヲ記スルトハ例ヘハ金何圓某氏ノ榮譽ノ爲メ又ハ某氏ノ署名ノ爲メ或

ハ某氏ノ榮譽並ニ計算ノ爲メニ引受候也ト記スルノ類ヲ云フ此ノ如キ引受ハ何人ヲ問ハス苟モ爲換上ノ能力ヲ有スル者ナランニハ之ヲ爲シ得ヘシト雖モ振出人裏書人ノ如キハ決シテ引受人ト爲ルコト能ハス義務者其己ノ義務ヲ保證スルモ何ノ益カアラン故ニ此引受人ハ支拂人又ハ第三者ナラサル可カラス

### 第四節 手形ノ保證

保證トハ保證人ノ保證ニ於ケルト同一ニシテ字義ニ付キテハ異ナルコトナシト雖モ其手形ノ支拂ヲ保證スルニ付キテハ聯帶責任ヲ負フモノナリ故ニ此保證人ノ義務ハ夫ノ振出人支拂人豫備支拂人裏書人引受人榮譽引受人等ノ義務ト異ナルノミサラス之ヲ一般ノ保證人ニ比スルモ亦少シク異ナレリ一般ノ保證人ハ主タル債務者其債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リ初メテ保證人其義

手形ノ保  
證ハ聯帶  
責任ヲ負



務ヲ履行スヘキモノナルヲ以テ其義務ハ第二位ニ在リテ從タル  
 姿ナリ之ニ反シテ聯帶責任即チ爲換ノ保證義務ハ最初ヨリ主タ  
 ル債務者ト同一ニ其義務ヲ履行スヘキ責任アルモノザリ而シテ  
 手形ノ保證人タルヲ得ル者ハ手形ニ全ク關係ナキ第三者ニシテ  
 爲換上ノ能力者ニ限ルモノトス若シ其保證人ニシテ手形ニ關係  
 アリテ義務ヲ負擔スル者ナルニ於テハ保證ハ無用ニ屬スルモノ  
 トス

以上説述シタル如ク保證ヲ爲スニハ通常手形ニ記載スルヲ正則  
 ナリト雖モ第七五二條ニ於テ變例ヲ認許シタルニ因リ別紙ノ公  
 正證書ヲ以テ之ヲ爲シ得ルハ勿論私ノ證書若シハ通常ノ書狀中  
 ニ記載スルコトヲ得ルモノニシテ其効力ハ同一ナルモノナリ而シ  
 テ此書面ヲ以テ別ニ保證シ得可キ變例ヲ許シタルハ是レ手形ニ

直チニ保證ノ旨ヲ記スルトキハ却テ手形ノ信用ヲ害スルノ嫌ア  
 ルヲ以テナリ

保證ノ義務ハ明示シテ制限ヲ附シ契約スルコトヲ得ヘシ例ヘハ甲  
 者ニ係リ請求ヲ爲シタル後義務ヲ負擔ストカ又ハ其半額ノミチ  
 保證ストカ或ハ時日ヲ限リテ保證スヘシトノ制限ヲ附スルヲ云  
 フ然レトモ注意スヘキハ此制限ノ効力ハ唯タ當事者間ニ於テノ  
 ミ有効ナルニ過キス故ニ第三者タル他人ハ斯ノ如キ制限ノ保證  
 ヲ承諾スルノ義務ナシ是ヲ以テ保證人ハ設ヒ制限ヲ附シタル場  
 合ト雖モ第三者ニ對シテハ先ツ完全ノ保證義務ヲ盡シ然ル後其  
 契約シタル相手方ニ向ヒテ契約上ノ權利ヲ行フ可キモノナリ

## 第六章 手形ノ支拂及ヒ不拂

### 第一節 手形ノ支拂

支拂ノ貨  
幣如何

支拂トハ義務ヲ消滅スル方法ノ一ニシテ此方法ニ一般ノモノト  
 特別ノモノトアリ即チ一般ノ消滅方法トハ一般民法上ニ規定セ  
 ル更改合意ノ免除相殺混同等ニシテ特別ノ消滅方法トハ手形法  
 上ノ支拂及ヒ時効是レナリ而シテ此爲換義務ノ消滅ニ付キテノ  
 方法モ亦同シク普通債務ノ消却ノ如ク一般ノ消滅方法ニ因リ其  
 原則ヲ適用スヘキコトハ言テ俟タスト雖モ元來爲換義務ナルモノ  
 ハ一種特別ノ性質ヲ有スルニ由リ其消滅方法タル支拂及ヒ時効  
 モ亦異ナル特別規定ニ因ラサル可カラス即チ支拂ニ就キテ之ヲ  
 論センニ貨幣ノ種類支拂期日場所及ヒ人ニ關スル規定ハ此法ニ  
 從ハサル可カラス  
 支拂スヘキ貨幣ノ種類ニ付キテハ特ニ手形面ニ明記アルトキ例  
 へハ英國ヨリ振出シ東京ニテ支拂フヘキ場合ニ何磅ト記シ特ニ

磅ニテ支拂フヘシトカ又ハ金貨ニテ支拂フヘシトカ記載アルト  
 キハ之ニ從ヒ支拂ヲ爲サル可カラスト雖モ其他記載ナキ場合  
 ハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂フコトヲ得ル  
 モノナリ

支拂ヲ受クルニ付キテハ一覽拂ノ手形ヲ除クノ外之ヲ其前ニ於  
 テ呈示セサル可カラサルコトハ既ニ之ヲ説述セリ而シテ其支拂人  
 カ之ヲ引受ケタルト否トヲ問ハス其手形ノ支拂ヲ受クルニ付キ  
 テハ満期日ニ支拂人ノ所ニ於テスヘキモノナリ然リト雖モ他所  
 拂ノ手形ニ在リテハ支拂地タル所ニ於テ満期日ニ請求スヘキモ  
 ノトス若シ規定ノ場所ニ就キテ支拂ヲ受ケントスルトキハ其費  
 用ヲ負擔セサル可カラス又此支拂ニ就キテ恩惠期日ナルモノア  
 リ

恩惠期日  
ハ我法律  
ニ認メテ  
ルヤ

恩惠期日トハ満期日後若干日間ハ手形ノ所持人ニ於テ支拂ヲ請  
求スヘキヲ怠ルト雖モ之ヲ宥許ス可キ日數ヲ謂フナリ例ヘハ  
八月三十一日カ支拂期日ナルモ所持人ハ其日ニ支拂ヲ求メスシ  
テ九月五日ニ至リ請求スルモ支拂人ハ尙ホ之ニ應シテ支拂スル  
カ如シ即チ魯國ニ於テハ八日間英國ノ如キハ三日間恩惠期日ト  
シテ満期日後ノ支拂ヲ許スカ如キ是レナリ然レトモ我手形法ニ  
於テハ一般ニ之ヲ認メス唯々地方ニ習慣アルモノニ限り之ヲ許  
セリ故ニ支拂地ノ慣習ニ非スシテ支拂期日チ一日ニテモ後ル、  
トキハ振出人及ヒ裏書人ニ對スル償還請求權ヲ失フニ至ルト雖  
モ其支拂期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ翌日即チ次ノ業務ヲ執  
ルヘキ日ヲ以テ當然支拂日トナル故ニ尙ホ此場合ニ於テハ請求  
權ヲ失フモノニ非サルナリ

支拂人ハ  
支拂期日  
前ニ支拂  
ヲ爲スノ  
權利アリ

支拂期日ニ就キテハ普通ノ支拂ト手形支拂トノ間ニ差異アリ普  
通ノ支拂期日ハ義務者ノ利益ニ歸スルヲ原則トス例ヘハ債權者  
ハ契約期日ニ達スルニ非サレハ債務者ニ義務ノ履行ヲ強要スル  
コトヲ得スト雖モ債務者ニ在リテハ其期日ニ至ラサルモ其前ニ於  
テタリトモ其履行ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ之ニ反シテ手形ノ支  
拂ニ至リテハ所持人其満期日前ニ支拂ヲ受クル義務ナシ是レ法  
律ハ所持人ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノニシテ若シ手形ノ  
支拂ニ就キテモ債權者即チ所持人ニ此義務即チ期日前ニモ受取  
ラサルヲ得サル義務アリトセハ突然支拂ヲ受クル等ノコトアリテ  
所持人ノ胸算ニ相違シ一時其金額ヲ使用スル途ニ困却スル場合  
モアルヘク或ハ所持人カ支拂期日ニ至リ爲換相場ノ騰貴センコ  
ト豫期スル場合モアルヘシ然ルニ其期日前ニ支拂ヲ受クルトキ

ハ其希望ヲ達スル能ハズシテ一定ノ不利益ト遺憾トヲ忍ヒサル  
ヲ得サルヘシ

以上ノ如ク權利者ハ其期日前ニ於テ支拂ヲ受クルノ義務ナキノ  
ミナラス法律ハ期日前ノ支拂ヲ欲セスト雖モ支拂人ト所持人ト  
ノ間合意アルトキハ一般ノ原則ニ基キ固ヨリ有効ナリ然レトモ  
之カ爲メ危險ノ生シタルトキハ何人カ其結果ヲ引受クヘキヤ例  
ヘハ手形ヲ紛失シ又ハ盜難ニ罹リタルトキ其拾主或ハ盜取者ヨ  
リ眞ノ所持人ノ氏名ヲ偽稱シテ支拂人ニ支拂ヲ要求シタル場合  
ニ支拂人其事實ヲ知ラス之ニ應シテ満期日前ニモ拘ラス支拂ヲ  
爲シタルトキハ更ニ眞ノ所持人ニハ何人カ満足ナル支拂ヲ爲ス  
ヘキモノナルヤト謂フニ此場合ニハ支拂人ニ於テ其責任ヲ負擔  
セサル可カラス何トナレハ手形ノ偽造變造及ヒ紛失盜難等ニ罹

手形ノ支拂  
取者支拂  
金期前ニ  
取リテ受  
何人ノタ  
失ニ歸ス  
ルヤ

リタルモノハ多ク支拂期日ニ至リ發覺スルモノナルヲ以テ法律  
ハ是等ノ危險ニ陷ラントテ恐レ期日前ノ支拂ヲ好マサリシニモ  
拘ラス之カ支拂ヲ爲シタルトキハ容易ニ事實ノ眞否ヲ識別シ得  
サルニ因リ其責務ハ支拂人ニ負擔セシメ以テ眞ノ所持人ヲ保護  
シタル所以ナリ

支拂人支拂ニ就キテ注意スヘキコト右ニ述ヘタルカ如シ尙ホ支拂  
人及ヒ所持人ニ於テ注意スヘキコトアリ即チ手形ノ所持人破産シ  
タルト又ハ手形ヲ紛失シ若クハ盜難ニ罹リタルトキニ於テ其破産  
管財人又ハ眞ノ所持人ハ本法第七六四條及ヒ民訴第七七七條以  
下ノ規定ニ基キ裁判所ノ命令ヲ以テ其支拂ヲ差押ヘサル可カラ  
ス若シ否ラスシテ支拂期日ニ至リ支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキ  
ハ管財人並ニ所持人ハ之ニ對シテ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス然

手形紛失  
ノ時ニ思  
スル方法  
如何

レトモ支拂人ニ於テ眞ノ所持人破産シタルト又ハ眞ノ所持人ニ非カルトナ知リツ、或ハ之ヲ知リ得ヘキ事情ノ證明アルニモ拘ラス支拂ヲ爲シタルトキハ支拂人其責務ヲ免ル、ト能ハサルモノト知ル可シ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ支拂人ハ所持人ノ眞否ヲ調査シ其不正當ノ人ト認ムルトキハ其支拂ヲ拒ムノ權利アルト論ヲ埃タスト雖モ此權利ヲ濫用シテ徒ニ支拂ヲ遷延スルカ如キハ法律ノ欲セサル所ナルニ因リ若シ惡意ヲ以テ支拂ヲ遷延シタルトキハ是ニ就キテ損害賠償ノ義務ヲ免レサルナリ

### 第二節 榮譽支拂

榮譽支拂トハ爲換手形ノ支拂人支拂ヲ拒ミタルトキ振出人又ハ裏書人ノ名譽ノ爲メ他人ノ支拂ヲ爲ス場合ナリ其支拂人タル者

ハ前章第三節ニ述ヘタル三個ノ者はレナリ而シテ此支拂人自ラ榮譽支拂ヲ爲スノ利益ハ前章ニ於テ述ヘタル如ク資金ハ未ダ領取セサルトノ推定ヲ受クルノミナラス所持人ニ代位シテ償還請求ノ訴ヲ爲シ得ルノ利益アルモノナリ

榮譽支拂ハ如何ナル場合ニ爲スヘキカト謂フニ必ス支拂人ニ於テ拒ミタル後ナラサル可カラス故ニ若シ其以前ニ於テ支拂ヒタルトキハ榮譽支拂人ノ權利ヲ得ルト能ハス又所持人ハ支拂ノ拒絶サレタル場合ニハ拒證書ヲ作り然ル後榮譽引受人ニ支拂ヲ求ムヘキモノニシテ其豫備引受人又ハ其他ノ参加人タル榮譽引受人アルニモ拘ラス直チニ償還ノ請求ヲ爲シ得サルハ勿論此手續ヲ行ハサルトキハ償還請求權ヲ失フモノナリ故ニ所持人ハ如何ナル場合ニテモ先ツ以テ支拂人ニ支拂ヲ要求シ其拒絶ヲ受ケタル

榮譽支拂  
ノ權利  
及如何  
順序

トキハ榮譽引受人アレハ之ニ請求ヲ爲シタル後ニ非サレハ償還ノ請求ヲ爲シ得サルモノトス又榮譽支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ支拂人ハ即チ所持人ノ有スル權利ヲ承繼スルモノナルヲ以テ拒證書又ハ其附箋ニ支拂ヲ爲シタル旨ヲ記入シ其拒證書並ニ爲換手形ヲ所持人ヨリ受取ラサル可カラス之ニ反シテ榮譽引受人カ支拂ヲ拒ミタル場合ハ更ニ拒證書ヲ要セサル故曩キニ支拂人ノ不拂ノ爲メ作リシ拒證書又ハ其附箋ニ其旨ヲ記入スレハ可ナリ然レトモ或ハ手形ノ所持人ノ方ヨリ此榮譽支拂人ヘノ提供又ハ其支拂ヲ受クルコトヲ拒絶スル場合アリ此場合ニ在リテモ亦其旨ヲ拒證書又ハ其附箋ニ記入スルコトヲ要ス

榮譽支拂人數人アルトキハ何人ヲ以テ先位ノ支拂人ト爲ス可キヤノ疑ナキ能ハス此時ニ在リテハ振出人ノ爲メニスル者即チ最モ多クノ義務者ノ爲メニスル者ヲ先トシ最モ後ノ裏書人ノ爲メニスル者ヲ最モ後トセサル可カラス又同一人ノ爲メニスル榮譽支拂人數人アル場合ハ當然ノ支拂人ヲ以テ第一ト爲シ其他ノ者ハ申込ノ早キ者ヲ第二第三トシ次第ニ順位ヲ以テ撰定スヘキモノナリ而シテ振出人ノ爲メ榮譽支拂アリタルトキハ受榮譽者即チ振出人ヲ除クノ外ノ關係者ハ其義務ヲ解除セラルト雖モ却テ振出人ノ爲メニ榮譽支拂人ナク裏書人ノ榮譽ノ爲メ支拂アリタルトキハ唯タ此受榮譽者以下ノ義務ヲ免レシムルノミニシテ受榮譽者ヨリ前ノ裏書人又ハ振出人ニ至ルマテノ前者ハ榮譽支拂人ニ對シテ償還義務ヲ免レタルモノニアラス

榮譽支拂人カ支拂ヲ爲スハ所謂民法ノ代位辨濟ニシテ所持人換言セハ即チ債權者ノ權利ヲ承繼スルモノナリト雖モ此爲換義務

ト一般義務トノ代位辨濟ニハ若干ノ差異ナキ能ハス何トナレハ民法ノ代位辨濟ハ其主タル義務者ノ關係人例ヘハ保證人若クハ抵當物讓受人ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルヲ原則トス然ルニ爲換義務ニ在リテハ何人ト雖モ代位シテ(振出人及ヒ裏書人ヲ除ク外)辨濟シ其權利ヲ承繼スルコト得然レトモ手形ノ所持人ハ榮譽支拂人ノ提供即チ支拂ヲ受クルコトヲ拒絕シ得ルモノナリ

### 第三節 償還請求及ヒ戻爲換

手形ノ所持人カ償還請求ヲ爲サンニハ何レノ時ニ何レノ人ニ對シテ如何ナル金額ヲ請求スヘキヤト謂フニ則チ支拂人カ滿期日ニ於テ支拂ヲ拒ミ又榮譽引受人アル場合ニ於テ此引受人モ亦支拂ヲ爲サ、ルトキ所持人ハ即チ振出人若クハ裏書讓渡人ニ對シ爲換金額及ヒ不拂ニ由リ生シタル費用例ヘハ拒絕書作成ノ費用

償還請求  
權ノ内ニ  
何々ヲ含  
ムヤ

並ニ其利子即チ滿期日ノ翌日ヨリ起算シテ年百分ノ十ノ利息一割等ヲ合算シタルモノヲ要求シ得ヘシ是レ償還請求權ノ行使ナリ然ルニ所持人カ此完全ナル償還請求權ヲ得ント欲セハ先ツ左ノ三條件ヲ履マサル可カラス第一爲換手形ヲ呈示スルコト第二拒絕書ヲ作成スルコト第三償還ノ請求ト拒絕書作成シタルコトノ通知ヲ爲スコト是レナリ而シテ拒絕書ハ滿期日即チ支拂ヲ拒ミタル次ノ營業日ニ於テ作り其償還ヲ受ケントスル者ニ對シ作成ノ翌日書面ヲ以テ前第三ノ條件ヲ通知スヘキモノトス又其償還ノ請求ヲ爲サントスル者カ所持人ニ非スシテ裏書人ナルトキハ自己通知ヲ受ケタル日ノ翌日ニ於テ又之ヲ通知スヘキモノナリ右ノ手續ハ支拂人ニ於テ不完全ノ支拂ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ爲スコト得ヘキハ勿論之ニ由リテモ尙ホ償還請求權ヲ生スヘ

キナリ然レトモ拒證書ノ作成ヲ免除シタルトキハ必スシモ之ヲ作ルコトヲ要セス故ニ其免除シタル者ニ對シ所持人ハ唯タ手形ノ謄本ト償還請求ノ通知ヲ送附スルヲ以テ足レリトス

償還請求ヲ爲サンニハ設ヒ引受拒絕ノ時ニ拒證書ヲ作り通知シアリト雖モ尙ホ不拂ノ時ニ於テ再ヒ前第三ノ條件ヲ行ハサル可カラス是レ夫ノ支拂ノ事ヲ説明スルニ當リテ引受ヲ拒マレタルモ尙ホ一タヒ満期日ニ手形ヲ提出シテ支拂ヲ要求セサル可カラスト謂ヒタル所以ナリ然リ而シテ此償還請求權ヲ行ハンニハ所持人ヨリ前裏書人ニ對シ此裏書人ハ其前裏書人ニ對シ順次逆戻シテ遂ニ振出人ニ至ルヘキモノナリ其義務ノ負擔タル最終ノ裏書人ヨリ振出人ニ至ルマテ皆連帶責任ヲ負フ然リ故ニ其一人ノ義務履行ヲ口實トシテ他關係者ハ義務ヲ免ル、コト能ハス便チ所

持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケ辨濟シタル裏書人ハ自己ノ前裏書人若クハ振出人ニ對シテ之カ償還ヲ請求シ得ヘキハ勿論若シ之ニ應シテ支拂ハサルキハ當事者ノ或ル一人又ハ全員ニ對シ自己ノ撰擇ヲ以テ何人ニ對シテモ其償還ヲ要求スルコトヲ得ルモノナリ是レ連帶責任ニ由リテ生スル當然ノ結果ナリ不拂手形ノ所持人或ル場合ニ於テハ同一ノ責任ヲ負フコトアルヘシ然リ而シテ未タ満期日ニ至ラサル中ニ引受人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ其他資力ノ確カナラサルコト顯然タル場合ニ其支拂ヲ保全スル爲メニ所持人ヨリ要求スル充分ノ擔保ヲ供提セサルキハ同シク支拂ヲ拒絕シタル時ノ如ク支拂拒證書ヲ作り以テ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘシ又爲換義務上ニ於テ振出人タル者ハ如何ナル場合ト雖モ償還請求ヲ受クルニ當リテハ既ニ爲換資金ヲ支拂人ニ



戻爲換ノ  
必要及ヒ  
取扱如何

送致シタリ又債權アリトノ理由ニ基キ之ヲ免ル、ト能ハス然リ  
ト雖モ其爲換資金ヲ提供スヘキ義務アル者ヨリ償還請求ヲ受ケ  
タル場合ハ別ナリ未タ資金ヲ提供セサルニアラスヤトノ抗辯ヲ  
以テ其義務ヲ免レ得ヘシ而シテ此償還義務者カ支拂ヲ爲スニ常  
リテハ先ツ爲換手形拒證書及ヒ受取證ヲ記載シタル償還計算書  
並ニ受取證ヲ記シタル手形及ヒ支拂拒證書ノ交付ヲ受クルノ權  
利アリ故ニ之ヲ受ケサル内ハ支拂ノ義務ナキモノトス  
戻爲換ナルモノハ償還ノ一方法トシテ應用スルモノナリ故ニ此  
費用モ償還請求權ノ内ニ含有ス而シテ戻爲換手形ナルモノハ支  
拂拒證書ヲ作りタル所持人カ爲換金額及ヒ不拂ニ由リテ生シタ  
ル諸費用ノ償還ヲ得ンカ爲メ拒マレタル手形拒證書及ヒ償還計  
算書ヲ添ヘテ彙キノ振出人若クハ裏書人ニ對シテ發行スルモノ

ナリ其之カ發行ヲ爲ス場合ハ多クハ償還請求ヲ爲サントスルモ  
土地遠隔ニシテ其金額ヲ得ンニハ永ク時日ヲ費サ、ルヲ得サル  
ニ因レリ是ヲ以テ此振出人ハ戻爲換ヲ作り之ヲ他人即チ仲買人  
等ニ讓渡シ以テ直チニ一定ノ金額ヲ得ルモノナリ  
元來戻爲換ノ振出人若クハ裏書人ニシテ信用者ナルトキハ何人  
モ之ヲ買受クルコトヲ辭セサルヘシ何トナレハ此戻爲換ノ振出人  
即チ本爲換ノ所持人ハ此戻爲換ニ對シ連帶ノ責任アレハナリ然  
レトモ本爲換ヨリハ多少ノ低價トナルヘキコトハ已ムヲ得サル事  
實ナリトス是故ニ戻爲換ノ額面ヲ本爲換ノ額面ヨリ若干高クシ  
テ以テ其損失ヲ免ル、ノ手段アリトス

#### 第四節 拒證書

拒證書ハ總ヘテノ償還義務者ニ對シテ支拂人カ引受テ拒ミタル

拒證書ハ  
何ノ爲メ  
ニ作ルヤ

一〇  
一及ヒ支拂ヲ拒ミタルコトヲ證明スルモノナリ元來所持人ノミノ  
作リタル書面ニ對シテ信用ヲ與フルコト能ハサルノミナラス設  
ヒ支拂人ノ自記シタルモノト雖モ之ニ充分ノ信用ヲ與フルニ足  
ラス故ニ拒證書ノ作成ニ付キテハ各國幾分ノ相異アルニモ拘ラ  
ス公正證書ヲ必要トスル點ニ就キテハ皆其規ヲ一ニセリ是ヲ以  
テ我手形法ニ於テモ公正證書ヲ以テ作ルコトヲ必要トシ唯タ其地  
ニ之ヲ作ルヘキ公吏在ラサルトキニ限り所持人便チ拒マレタル  
者ニ於テ成年ノ男子タル證人二人ノ立會ヲ以テ作り得ルコトヲ許  
セルモノトス

抑モ拒證書ハ何レノ場合ニ何レノ所ニ於テ如何ナル人カ如何ナ  
ル事項ヲ記載シテ作ル可キモノナルヤト謂フニ所持人カ支拂人  
ニ對シテ手形ノ引受又ハ支拂ヲ要求シタルニ支拂人之ヲ拒絶シ

作成ノ方  
法如何

タル場合即チ其翌日此拒者ノ換言スレハ支拂人ノ營業場ニ於テ  
若シ之レ無キトキハ其住居ノ内ニ於テ其他ノ場合例ヘハ拒者不  
在ナルカ又ハ臨席スルコト或ハ來入スルコトヲ肯ンセス若クハ門戶  
ヲ閉鎖シタル等ノトキハ其住居ノ傍ニ於テ尙ホ已ムヲ得サル場  
合ニ在リテハ裁判所又ハ公證人或ハ執達吏ノ役場ニ於テ執達吏  
或ハ公證人カ法文ニ示セル規定ニ基キ作成スルヲ原則トス其記  
載スヘキ事項左ノ如シ

第一 爲換手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺漏ナク記載  
スヘシ

第二 拒者ノ臨席又ハ不在

第三 引受支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶並ニ拒絶ノ理由

第四 右要求及ヒ拒絶ノ日並ニ場所

第五 榮譽引受又ハ榮譽支拂アルトキハ其旨

第六 年月日場所及ヒ臨席總員ノ署名捺印

拒證書作成ノ手續ハ以上説明ノ如シト雖モ拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサルトキハ支拂地ノ官署即チ市町村役場等ニ問合セ尙ホ知レサルトキハ其官署内ニ於テ作ルヘキモノトス假令ヒ法律上ニ作成ノ場所ヲ定メタル時ト雖モ拒者ニ於テ承諾セサルトキハ其場所以外ノ地ニ於テ作ルヲ得ヘシ然レトモ此場合ニハ拒證書ニ其事ヲ記載セサル可カラス

而シテ此拒證書ヲ作リタルトキハ拒者ノ署名捺印ヲ必要トスル故ニ其署名捺印スルヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ爲サシムルヲ能ハサルトキハ其事由ヲ記載セサル可カラサルモノナリ

拒證書ノ作成ハ既ニ引受拒絶ノ場合ニ於テ作リタリト雖モ尙ホ

支拂拒絶ノ時ニ至リ再ヒ作ルヘキモノニシテ其他支拂人ノ死亡、破産、家資分散及ヒ失跡所在不明等ノ場合ニモ亦之ヲ作ルヘキモノナリ加之所持人ハ作成免除ノ記載アルトキト雖モ之ヲ作ル權利ヲ有スルモノトス

上來屢々説明シタル如ク拒證書作成ノ要ハ償還請求權ヲ取得スルニ在リ反言セハ之ヲ作ラサル間ハ其請求權ヲ發生セス故ニ之ヲ作ランニハ執達吏若クハ公證人ニ直チニ申込ミ依頼スヘキナリ而シテ其費用ハ被拒者ニ於テ立換スヘキモノニシテ執達吏ハ其手数料拾錢ヲ得テ拒者ノ住所ニ至リ之ヲ作リ公證人ハ貳拾五錢ノ手数料ニテ作ルヘシ然レトモ拒者ノ住所カ執達吏若クハ公證人役場ヨリ遠隔ナルトキハ定規ノ旅費ヲ請求スルヲ當然ナリトス然ルニ公證人ハ執達吏ノ如ク代理人ヲ使用シテ拒證書ヲ作

約束手形  
ニモ亦拒  
證書ヲ要  
スル場合  
アリヤ

成シ得サルニ因リ其依頼ヲ嫌フノ風アリ  
現今拒證書ニ就キテ奇異ナル現象ヲ呈セリ曰ク爲換手形ニハ概  
シテ拒證書ノ作成義務ヲ免除スルヲ掲ケ其手數ト費用ヲ省ク  
ニモ拘ラス却テ法律ニ於テ必要トセサル約束手形ノ爲メニ執達  
吏ハ拒證書作成ノ依頼ヲ受ケ忙ハシト是レ何ソヤ必竟約束手形  
ハ振出人ハ支拂人ナルヲ以テ固ヨリ引受又ハ支拂ノ爲メニスル  
呈示ヲ要セス隨テ拒證書ノ作成モ亦必要ト爲サスト雖モ約束手  
形ニ在リテモ同シク裏書ヲ以テ數人間ニ轉帳流通スルモノナレ  
ハ其權利關係ハ恰モ爲換手形ト同様トナリ爰ニ拒證書ノ作成ヲ  
必要ト爲スニ至リシ所以ナリ

### 第七章 爲換資金

爲換資金トハ支拂人ヲシテ所持人ニ爲換金額ヲ支拂ハシメシカ

爲換資金  
ハ必スシ  
ハ金錢タ  
ルナラス  
ルヤ

爲メ又ハ支拂人ニ於テ其既ニ支拂ヒタル爲換金額ヲ辨償スル爲  
メニ振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲換手形ヲ振出サシメタル者ヨ  
リ支拂人ニ交付スル金額ヲ謂フ故ニ此金額ハ振出人又ハ之ヲ振  
出サシメタル者ノ義務ニ屬ス然レトモ此義務ヲ履行センニハ必  
スシモ現金タルヲ要セス或ハ振出人ヨリ賣却シタル商品ノ代  
價或ハ支拂人ノ債務ニ屬スル委託販賣ノ代價ヲ引當トシ又ハ債  
權若クハ信用等總ヘテ支拂人ニ對シテ有スル振出人又ハ振出サ  
シメタル者ノ權利ハ之ヲ爲換資金ト爲シ得ヘキナリ  
支拂人既ニ引受ヲ爲シタルトキハ資金ヲ領收セリトノ推定ヲ受  
クルコトハ既ニ之ヲ説明セリ其何故ニ此推定ヲ受クルヤヲ論セン  
ニ凡ソ人ノ義務ヲ自己ニ負フ所以ノモノハ其原因ナクシテ之ヲ  
受諾スルモノニ非カレハナリ是ヲ以テ振出人ニ於テ支拂人ノ既

支拂人引  
受テ爲シ  
タル後振  
出タル破  
産シタル  
場合ニ於  
ケル所持  
權ノ利持  
如何

ニ引受ヲ爲シタル後ニ破産シタルトキハ手形ノ所持人ハ最早此  
資金義務者タル振出人ニ對シテ資金ノ要求ヲ爲スニ及ハス其引  
受人則チ支拂人ニ對シテ爲換金ノ支拂ヲ要求スヘキモノナリ之ニ  
反シテ支拂人未ダ引受ヲ爲サ、ル前ニ於テ資金義務者破産シタ  
ルトキハ所持人ハ資金義務者ナル破産者ニ對シテ資金ヲ請求セ  
サル可カラサルモノトス爰ニ肝要ナル注意ハ支拂人カ既ニ手形  
ノ引受ヲ爲セシ場合ト雖モ是レ唯々法律カ其資金ヲ領收セリト  
ノ一ノ推定ヲ下スニ過キカレハ其未タ之ヲ受取ラサルコトノ眞實  
ナルニ於テハ支拂人ハ事實ヲ證明シテ資金ノ未領收ナルコトヲ主  
張スルコトヲ許ス又此法律上ノ推定ハ假令ヒ其引受ノ方式カ不完  
全ナル場合例ヘハ口頭又ハ別紙ヲ以テ引受ヲ爲シタルトキト雖  
モ同シシ領收シタリト推測スルモノナリ

爲換資金ハ何時所持人ニ移轉スルモノナルヤノ疑問ハ屢々起ル  
問題ナリ例ヘハ手形ヲ振出シタル後振出人破産ノ宣告ヲ受シル  
トキハ此資金ハ普通ノ債權ト同シク破産財團トナリテ總債權者間  
ニ分配ヲ爲スヘキモノナルヤ將タ此資金ニ限り手形所持人ノ特  
權トシテ優先ノ權ヲ有シ一般ノ債權者ニ先チテ資金ヲ受取ルノ  
權利アルヤ即チ此場合ニ於テ手形ノ所持人カ既ニ引受ヲ受ケタ  
ルトキハ其資金ノ所有權モ亦振出人ヨリ所持人ニ移リタルモノ  
ナレハ從テ一般ノ債權者ハ此支拂人ニ對シテ其資金ノ差押ヲ爲  
シ得サルノミナラス却テ所持人ハ是等ノ債權者ニ對シテ優先ノ  
權ヲ有スルト同一ノ結果ヲ生スルニ至ル之ニ反シテ資金尙ホ振  
出人ノ手中ニ在リ又支拂人モ未ダ引受ヲ爲サ、ルトキハ資金ノ  
所有權モ亦所持人ニ移ラサルヲ以テ振出人ノ破産財團中ニ包括

振出人ノ  
爲換資金  
ニ供シタ  
ル商品尙  
ホ支拂人  
ノ手ニ存  
スル時支  
拂人破産  
シタルハ  
商品ハ破  
産財團ニ  
入ルヘキ  
ヤ

セラレ總債權者ト等一分配ノ權利ヲ有スルニ過キサルナリ  
振出人即チ資金ヲ供スヘキ義務者ノ破産シタル場合ハ以上説明  
ノ如シ更ニ支拂人ノ破産ニ由リテ生スル難問即チ支拂人未タ所  
持人ニ爲換金ヲ支拂ハサル前ニ於テ破産シタルトキニ於ケルニ  
個ノ場合ヲ區別シ左ニ之ヲ詳説セントス

第一 振出人カ爲換資金ニ充テンカ爲メ支拂人ニ送附シタル商  
品未タ賣却セラレスシテ現存スルトキ或ハ第三者ヨリ取立ツヘ  
キ債權ヲ以テ爲換ノ引當ト爲シタル場合ニ於テ支拂人尙ホ未タ  
其商品ヲ現有シ又ハ債權ヲ取立テサル前即チ金額ノ支拂人ノ手  
ニ歸セサル前ニ於テ破産シタルキハ此商品及ヒ債權ノ所有權ハ  
尙ホ振出人或ハ第三者ニ属シ未タ支拂人タル破産者ニ移轉セサ  
ルヲ以テ之ヲ其破産財團中ニ入ルヘキモノニ非ス故ニ此場合ニ

其金錢ナ  
ル時如何

於テ所持人ハ此商品及ヒ債權ニ對シ特權ヲ有スルヲ勿論ナリ

第二 振出人カ支拂人ニ對シテ有スル債權若クハ信用例ヘハ支  
拂人ヨリ振出人ニ辨済スヘキ金額又ハ支拂ノ爲メ受取リタル金  
額ヲ爲換資金ニ引當テタル場合ニ於テ支拂人若シ破産シタルト  
キハ其破産財團中ニ包括セラルヘキモノナルヲ以テ所持人ハ之  
ニ對シ特權ヲ行フヲ能ハス故ニ破産者ノ總債權者ト等一分配ノ  
權利ヲ行フニ過キサルナリ此場合ニ於テ裏書人アルトキハ所持  
人ハ之ニ對シテ償還請求ヲ爲スヲ以テ其損害ヲ免ルヘシ

### 第八章 約束手形

約束手形ノ性質當事者及ヒ効用並ニ方式ニ就キテハ既ニ第一章  
第三節及ヒ第二章第二節ニ於テ之ヲ説明セリ故ニ茲ニハ唯タ其  
行使ニ關スル概略ノ手續等ヲ説明スルト同時ニ之ニ付キテノ疑

約束手形  
振出ノ場  
合如何

點ヲ解説スルニ正メントス  
抑モ約束手形ナルモノハ普通商業上ノ負債金圓返却ノ爲メ又ハ  
買受ケタル商品代價支拂ノ爲メ若クハ恩惠上他人ニ金圓ヲ贈與  
スル爲メニ之ヲ證書ニ記載シテ振出シ一定ノ期日ニ振出人自ラ  
支拂フヲ約束スルノ用ニ供スルモノナリ一見普通ノ債權證書  
ノ如シト雖モ既ニ業ニ前述ノ如ク此手形モ社會ニ轉輸流通スヘ  
キ性質ヲ有スルモノナレハ則チ一ノ信用證券トナルモノナリ然  
リ而シテ約束手形ハ爲換手形ノ如ク關係ノ當事者三人ヲ要セス  
從テ支拂ノ爲メニスル豫メノ呈示ヲ必要トセス又引受及ヒ拒證  
書ノ作成等モ或ル場合ヲ除クノ外ハ必要ト爲サ、ルナリ然レモ  
約束手形ノ効用並ニ其手續等ハ殆ント爲換手形ト大差ナキヲ以  
テ之カ規定モ其性質上ニ於テ特別ナル條文ノミヲ規定シ其他牴

約束手形  
ニシテ記  
載ノ要件  
ヲ缺キタ  
ル者ハ何  
等ノ効力  
アリヤ

觸セサル限りハ總ヘテ爲換手形ニ關スル規定ヲ適用スルコト爲  
セリ  
約束手形ノ作成ニ付キテ記載スヘキ要件ハ既ニ之ヲ第二章第二  
節ニ於テ揭示セリ然ルニ此要件ハ之ヲ嚴實ニ手形ニ記載スルニ  
非サレハ約束手形トシテノ効力ナキモノナリ故ニ之ヲ遵守セサ  
ル手形ハ唯々單ニ民法上又ハ商事上ノ債權證書タルニ過キサル  
ヘシ  
約束手形ニ於テ支拂人ハ其振出人ナルヲ以テ其支拂ハ振出人ノ  
住居ニ於テ爲スヘキコト當然ナリ故ニ別ニ支拂地ヲ記スルニ及ハ  
スト雖モ亦例外トシテ他所拂ノ約束手形ナルモノ往々アリトス  
譬ヘハ本店ヲ東京ニ有シ其支店ヲ長崎又ハ大坂等ノ各地ニ有ス  
ル者カ長崎人ニ手形ヲ振出シ其支拂ヲ長崎或ハ大坂ノ支店ニ於

テ爲スカ如ク若クハ双方ノ合意ニテ手形ニ支拂地ヲ記シ他所ニ於テ支拂フコモアルナリ

約束手形モ既ニ流通ノ性質ヲ有スル以上ハ之ヲ指圖式即チ裏書ヲ以テ讓渡シ又ハ無記名式讓與ヲ爲シ得ヘキコト論テ埃ダス故ニ裏書讓與ヲ爲ス場合ニ在リテハ爲換手形ト同一ノ方式ニ因ルヘキハ勿論其受取人ハ裏書人トナリ手形ノ金額ハ第三者タル讓受人ニ於テ支拂ヲ受ク可キモノトナル且ツ若シ其手形カ不拂ナリシトキハ爲換手形ト同様ノ權利關係ヲ生スル故ニ此場合ニハ引受ノ呈示拒證書ノ作成及ヒ通知等爲換手形ノ如ク總ヘテ權利保全ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス而シテ其裏書人カ連帶保證ノ責任ヲ負フコト爲換手形ト毫モ異ナルコトナシ

加之約束手形モ其支拂期日ヲ或ハ定メ或ハ定メスシテ一覽拂又

ハ一覽後期日拂ト爲シ若クハ他所拂人ヲ掲ケテ發行シ得ルモノナレハ其一覽後期日拂若クハ他所拂人ヲ記シタル手形ハ同シク爲換手形ノ如ク權利保全ニ就キテ要スル手續ヲ履行セサル可カラサルモノトス

約束手形ノ振出人ハ自ラ受取人ト爲ルコト能ハス是レ義務者同時ニ權利者ト爲ルコト能ハサルノ原則ニ基クナリ且ツ夫レ約束手形ハ權利上普通ノ貸借證書ト其効力ニ於テ異ナルコトナシ要スルニ約束手形ハ之ヲ轉讓流通スルノ便益アルト訴訟上ニハ爲換訴訟トシテ特別ノ取扱ヲ受クルノ利益アルニ過キサルモノナリ

## 第九章 小切手

小切手ノ定義効用並ニ方式ニ付キテモ既ニ第一章第四節及ヒ第二章第二節ニ於テ之ヲ説明セリ爰ニ再ヒ之カ説明ヲ贅セス然レ



トモ此小切手ナルモノハ手形ト同シク通貨ノ代用トシテ社會ニ流通スルノミナラス最モ確實ナル信用證券ニシテ殆ント現金ヲ受取リタルト同一ナルヘキモノナルヲ以テ手形トハ効用ノ基本ニ於テ頗ル差等アルヘシ即チ小切手ハ銀行ノ支拂證券ト見テ可ナリ

小切手ハ一覽拂ニ非サレハ之ヲ振出スヲ得サル所以ハ何ソヤ  
外振出スルハ何ソヤ  
外振出スルハ何ソヤ

小切手ハ一覽拂ニ非サレハ之ヲ振出スヲ得サル所以ハ何ソヤ  
他ナシ小切手ヲ受取リタル者ハ恰モ現金ヲ受取リタル如ク其振出當時ヨリ既ニ確實ナル信用ヲ有セサル可カラサレハナリ即チ其所持人カ何時ニテモ呈出次第現金ト交換シ得ヘキモノナラサル可カラス又小切手ノ作成ニ付キテハ振出人ノ署名捺印スヘキハ勿論最モ其年月日ヲ正實ニ記載セサル可カラス是レ其年月日ニ於テ振出人ハ果シテ銀行ニ貸方ノ事實存セシヤ否ヤヲ知ルニ

必要歟シ可カラサレハナリ

小切手ハ一覽拂ニ非サレハ之ヲ振出スヲ得サル所以ハ何ソヤ  
外振出スルハ何ソヤ  
外振出スルハ何ソヤ

小切手ハ之ヲ記名式又ハ無記名式ニテ授受スルヲ得ルモノニシテ記名式ナルトキハ單ニ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テシ無記名式ナルトキハ手渡ニ依リ移轉スルヲ得ヘシ然リ而シテ小切手カ振出地ト支拂地ト同一ナルトキハ其振出日附ヨリ五日以内ニ於テ又之ニ異ナルトキハ十日以内ニ於テ所持人ハ支拂ヲ請求セサル可カラス若シ之ヲ怠ルトキハ遲延ノ爲メ損失ヲ負フ然レトモ法律ハ唯々其支拂ヲ請求スヘキ期間ヲ示シタルニ止マリ敢テ之ヲ禁シタルニ非サレハ所持人ト支拂者即チ銀行ト合意ノ上カ又ハ銀行カ好意上其支拂ヲ肯ニスルトキハ設ヒ其期限ヲ過シルモ支拂ニ差支ナキナリ

小切手ノ所持人支拂請求ノ爲メ呈示シタルモノ之ヲ受ケサリシト

キハ同一地ニ在リテハ日附ヨリ十日以内異ナルトキハ二十日以  
 内ニ讓渡人若クハ振出人ニ償還請求ヲ爲サ、ル可カラス若シ之  
 ナ怠ルトキハ其權利ヲ失フ然レトモ其期限經過ノ翌日ニ請求セ  
 シトキハ尙ホ有効ナリ加之振出人カ銀行ニ對シテ一ノ債權ナカ  
 リシトキ或ハ有リタルモ已ニ消滅シタルトキ若クハ振出人カ銀  
 行ニ對シテ小切手ノ支拂ヲ取消シタル等ノ場合ニ在リテハ期限  
 ノ過キ去リシ後ト雖モ此振出人ノミニ向ヒテ金額ヲ(然レトモ所持  
 果ニ依リ茲ニ至リタ  
 ルトキハ此限ニ非ス)請求シ得ヘキナリ

其他小切手ノ權利ニ付キテハ手形ト同一ナルヲ以テ三年ノ時効  
 ニ因ルハ勿論其起算點モ同一ナリ而シテ拒證書ノ作成ヲ要セサ  
 ルナリ然レトモ此小切手ノ金額受領ノトキハ小切手ニ受取ノ證  
 ナ記シテ交付スヘキモノト規定セリ最後ニ於テ(第八二三條)左記

違法ナル  
 小切手ノ  
 罰則如何

ノ各場合ニ金額百分ノ十ノ過料ニ處スルトノ嚴重ナル制裁ヲ附  
 セリ

- (イ) 日附ヲ爲サス小切手ヲ振出シ又ハ日附ヲ爲サス裏書讓渡シ  
 若クハ日附ヲ爲サス受取證ノミチ小切手ニ記シタル者
- (ロ) 小切手ニ虚偽ノ日附ヲ以テ振出シ又ハ裏書讓渡シ若クハ受  
 取證ヲ記シタル者
- (ハ) 日附ナキ小切手ヲ受取リタル總ヘテノ者又ハ支拂ヒタル者  
 若クハ振出或ハ裏書讓渡ノ日附ナキ小切手ニ受取ヲ記シタ  
 ル者
- (ニ) 相當ノ信用ナクシテ振出シタル者即チ銀行ニ當ナクシテ小  
 切手ヲ振出シタル者
- (ホ) 正當ノ理由ナクシテ支拂ニ付キテノ依頼ヲ取消シタル者

以上十一ノ場合ニ於テ過料ニ處スル所以ノモノハ小切手ノ流通  
上ノ安全ト信用トヲ確保スル爲メ已ムヲ得サルモノニシテ蓋シ  
至當ノ規定ト謂フヘキナリ

日本手形法摘要 畢

明治二十九年十月一日印刷  
明治二十九年十月五日發行

定價金貳拾五錢

愛知縣名古屋市朝日町百廿九番戶  
著作者 岩 村 茂

愛知縣名古屋市鐵砲町七十九番戶  
發行者 三 輪 文 次 郎

愛知縣名古屋市針屋町三十一番戶  
印刷者 小 池 清

愛知縣名古屋市針屋町三十一番戶  
印刷所 三 益 社



發行所

名古屋市鐵砲町

玉 潤 堂

# 各地販賣書肆

東京	大倉書店	鹿兒島	吉田幸兵衛
同	丸善書店	赤間ヶ關	山名松次郎
同	明法堂	廣島	清水庫三郎
同	有斐閣	尾ノ道	兒玉書店
大阪	吉岡平助	大津	淡海堂
京都	若林茂一郎	四日市	伊藤善太郎
横濱	弘集堂	金澤	雲根堂
神戸	久榮堂	新瀉	櫻井産作
長崎	安中虎與號	仙臺	木村文助
熊本	長崎次郎	函館	魁文舍

獨逸經濟博士レキシス氏著  
日本法學士岩村茂先生譯

米倉一平君藏版

## 商業經濟論

定價金七十錢  
郵稅六錢

本書ハ近世經濟新學派ノ泰斗トシテ其名歐米ニ噴ケタル獨逸國博士レキシス氏ノ新著ナ  
リ世間經濟ノ書多シト雖モ特ニ商業專門ノ經濟ヲ論究シタルハ抑モ氏ヲ以テ元祖トス譯  
者ハ法學士岩村先生ニシテ文意平明説キ得テ親切ナリ現ニ名古屋商業學校其他二三學校  
ノ教科書ト爲ル就中實業家殊ニ米穀株券取引ニ從事スル人並ニ外國貿易ニ關係ヲ有スル  
商業家ノ爲メニハ最要ノ羅針盤タリ

發行所 東京京橋三十間堀一丁目 交通學館  
大賣捌所 名古屋市鐵砲町二丁目 玉潤堂

# ●愛知法友會廣告

一 法友會

ハ會員ノ德義ヲ補正シ且ツ日新ノ法理ヲ講究ス

一 法友會

ハ汎ク江湖ノ法律問題ニ對シ答案ヲ與ヘ又ハ鑑定ヲ爲ス

一 法友會

ハ特ニ陸海軍ノ諸規則ニ關スル質議ニ答ヘ又ハ意見ヲ立ツ

一 法友會

ニ質議又ハ鑑定ヲ乞フモノハ同會ノ幹事ニ宛テ書面ヲ發スヘシ但シ口頭ヲ以テスルモ妨ケナシ

一 法友會

ニ入會セントスル者ハ其旨ヲ幹事ニ通シ其承認ヲ得テ名簿ニ其名ヲ署ス

名古屋市朝日町百廿九番戶

愛知法友會幹事

岩村

茂

68  
445

